



# らくらく電子取引

SQL Server2019 インストールと設定手順書

V1L10

第 1.0 版

株式会社豊里システムソリューション

## はじめに

本書は、らくらく電子取引で使用する Microsoft SQL Server 2019 Express のインストールと環境設定を行うための手順を記載しています。

SQL Server は、Windows Server 2019 または Windows 10/Windows 11 のいずれかにインストールします。

本書は、SQL Server 2019 Express エディションを中心に記載していますが、SQL Server 2019 Standard エディションでも概ね同様です

らくらく電子取引については、下記のサイトを参照願います。

<https://www.tssol.jp/products/eDocBiz/>

## 動作環境

らくらく電子取引で使用する Microsoft SQL Server 2019 Express エディションをインストールする PC の動作環境は以下の通りです。

らくらく電子取引をスタンドアロン（1台のみで運用する）または、最大で3台までの PC で運用する場合は、Windows PC にインストールすることができます。

この場合、Microsoft SQL Server 2019 Express エディションをインストールする PC は、1台のみにインストールします。

- ・ Windows PC の OS : Windows 10 または Windows 11

4台以上の PC で運用する場合は、Microsoft SQL Server 2019 Express のインストールは、Windows Server 2019 Standard Edition にインストールします。従って、この場合は専用のサーバ機が必要となります。

- ・ サーバ機の OS : Windows Server 2019 Standard Edition

## SQL Server 2019 Express Edition がインストール済の場合

らくらく電子取引で使用するデータベースのインスタンス名は、らくらく電子取引専用の「RAKURAKU」を使用します。

従って、既に Microsoft SQL Server 2019 Express Edition がインストールされていても、インスタンスの新規インストールとしてインストールする必要があります。なお、この場合のインストール手順も本書の手順書に従ってインストールします。

## 目次

1. 設定内容 .....	3
2. SQL Server2019 Express のインストール .....	4
2.1 ダウンロード .....	4
2.2 インストール .....	7
3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する .....	15
4. TCP/IP を有効にする .....	20
5. SQL Server Management Studio をインストールする .....	25
6. SQL Server の設定 .....	28
6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。 .....	28
6.2 リモート接続が許可されている事を確認します。 .....	29
6.3 sa アカウントでログインできるか確認します。 .....	31
6.4 新しいログイン名の作成 .....	33
6.5 新しいデータベースの作成 .....	37
6.6 テーブルを作成する .....	40
6.7 データベースユーザを作成する .....	43
6.8 セキュリティ可能なリソースを設定する .....	45
6.9 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する .....	50
6.10 データベースがリモート接続可能な設定を行なう .....	51
7. テーブル仕様 .....	53
8. 添付資料 .....	55
8.1 データベース作成用 SQL スクリプト .....	55
8.2 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト .....	59
8.3 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト .....	60
8.4 ログテーブル作成用 SQL スクリプト .....	61

## 1. 設定内容

SQL Server の設定内容を、以下まとめて記す。

次項以降、この設定を行うための SQL Server2019 のインストール手順、ならびに設定の詳細手順について記す。

設定項目	設定値
インスタンス名	RAKURAKU
リモート接続用ポート	TCP:1433
	UDP:1434
認証モード	混合認証
sa アカウントのパスワード	sa!admin
DB 接続時のログイン ID	eDocBiz
パスワード	eDocBiz!admin
データベース名	eDocBizdb
データベースの場所	C:\eDocBizdb
初期値の容量[MB]	256MB
増分値[MB]	64MB 単位で無制限
検索キーデータテーブル	tbl_DocRegdb
利用者情報管理テーブル	tbl_UserAccount
ログテーブル	tbl_Log

## 2. SQL Server 2019 Express のインストール

すでに SQL Server の他のエディション、または、SQL Server 2019 Express がインストールされている場合でも、新規に RAKURAKU のインスタンスをインストールする必要があるため、この章の実行は省略することができません。

### 2.1 ダウンロード

Microsoft の下記のダウンロードサイトを開きます

<https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-downloads>



画面を下方にスクロールして、Express のダウンロードボタンを表示します。



Express の下の「今すぐダウンロード」をクリックすると、ダウンロードフォルダに SQL2019-SSEI-Expr.exe というインストール用プログラムがダウンロードされます。

ダウンロードフォルダの SQL2019-SSEI-Expr.exe を実行するか、または、画面左下に表示されている SQL2019-SSEI-Expr をクリックします。

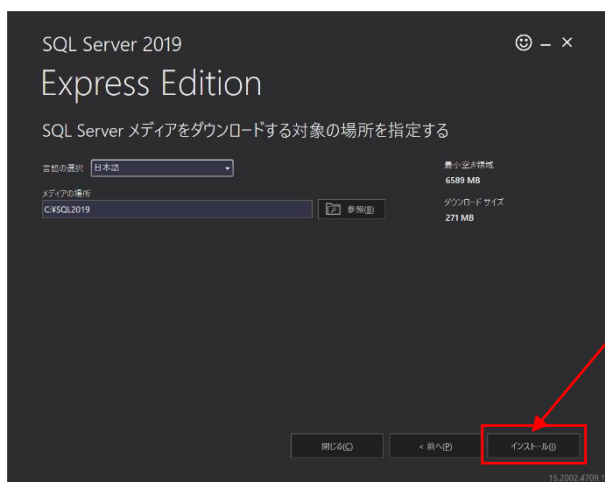
ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」と表示されるので「はい」を応答します。  
下記の画面が表示されます。



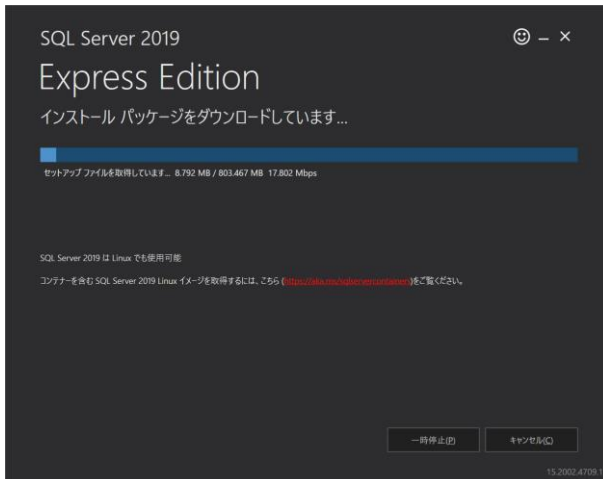
「カスタム」をクリックします。



SQL Server インストールメディアのダウンロード先は標準とし、変更せずに「インストール」をクリックします。



「インストールパッケージをダウンロードしています」と表示されます。

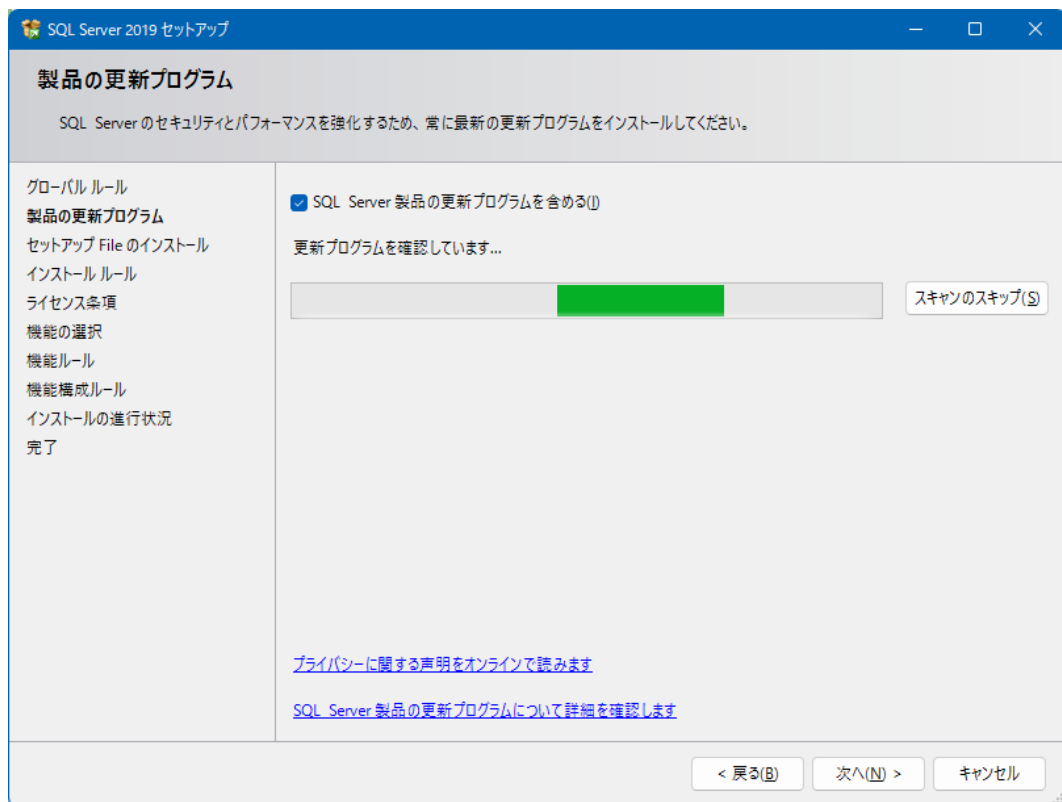
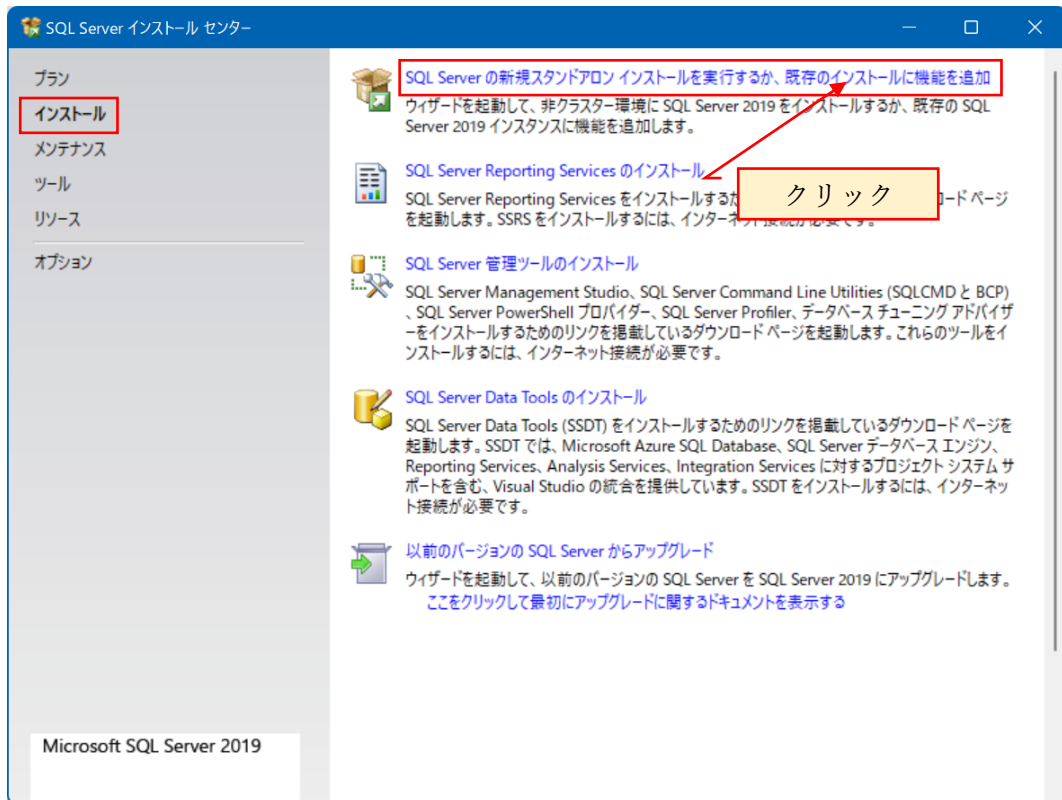


インストールパッケージのダウンロードが完了すると、自動的に下記の SQL Server インストールセンターが表示されます。

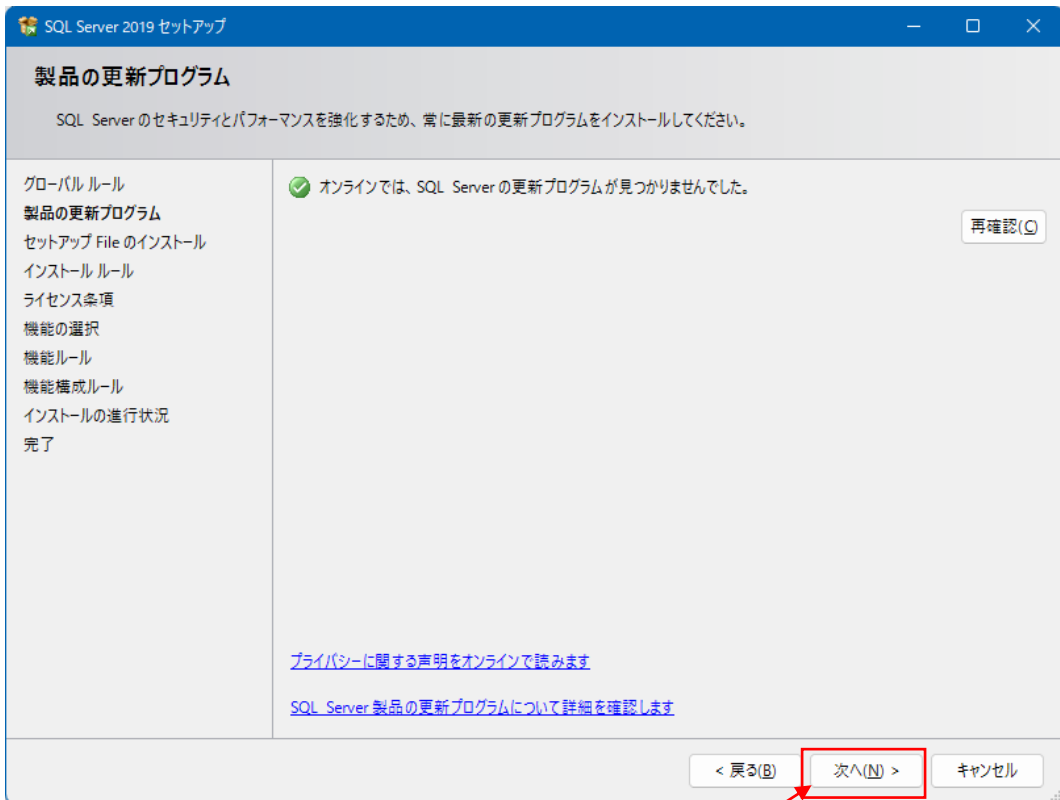


## 2.2 インストール

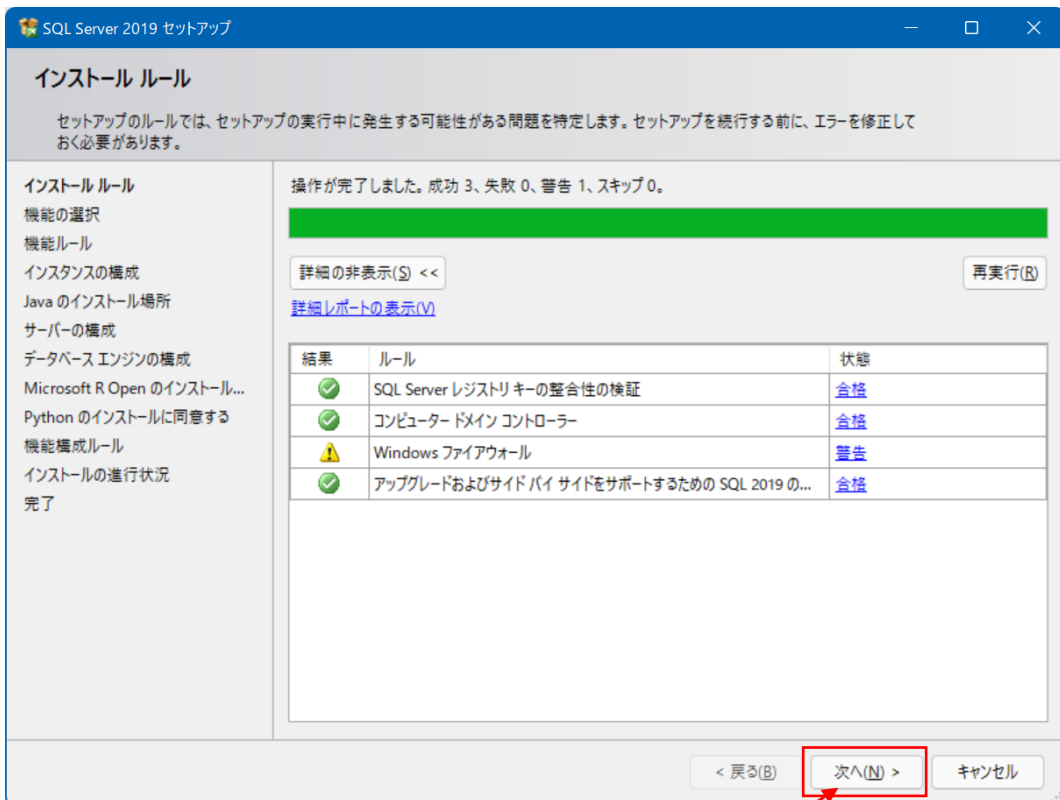
※下記画面の内容は、SQL Server のバージョンによって異なる場合があります。





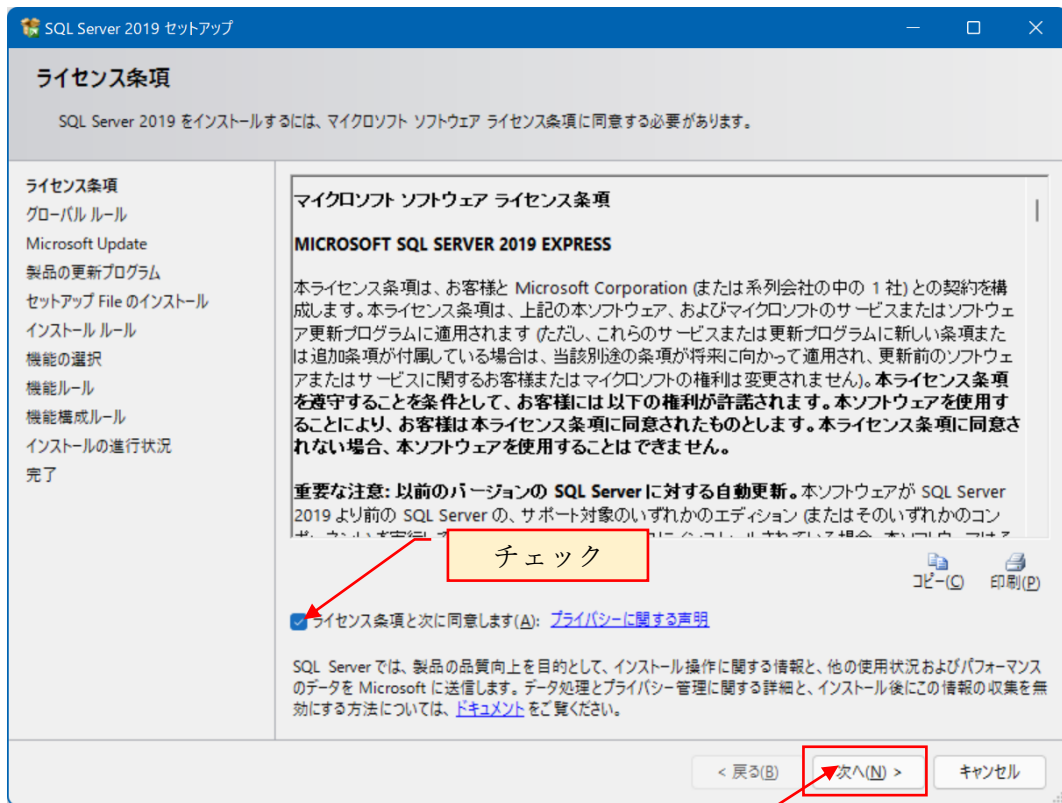


クリック

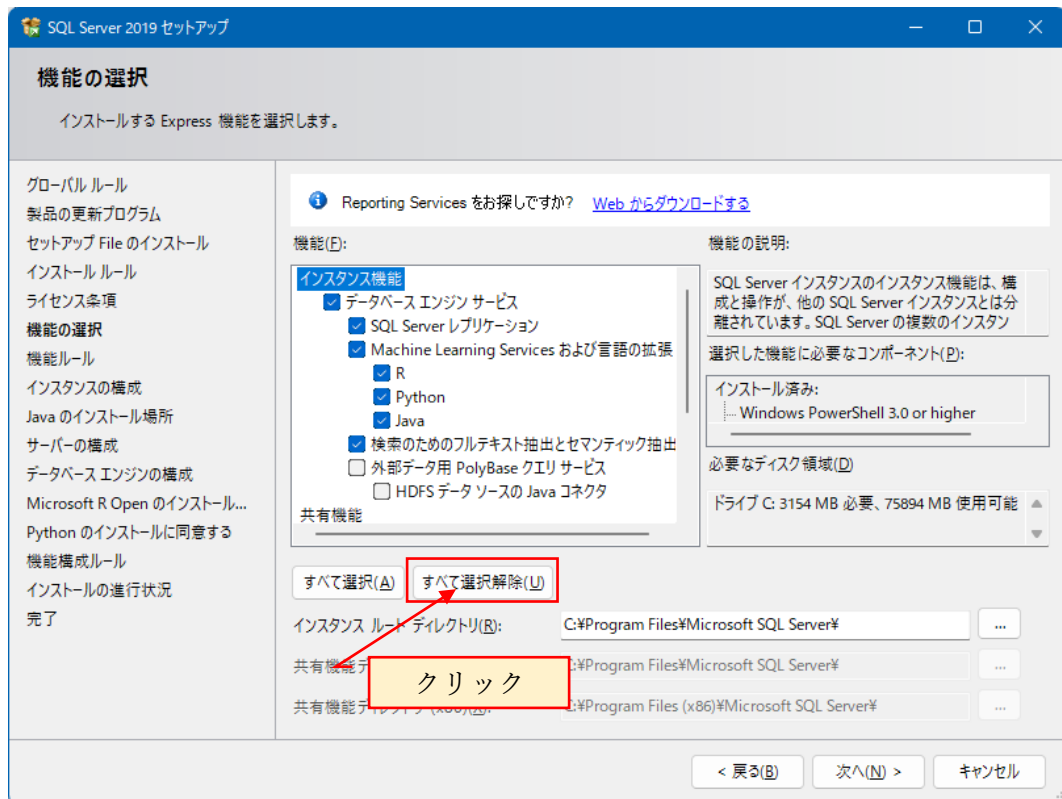


クリック

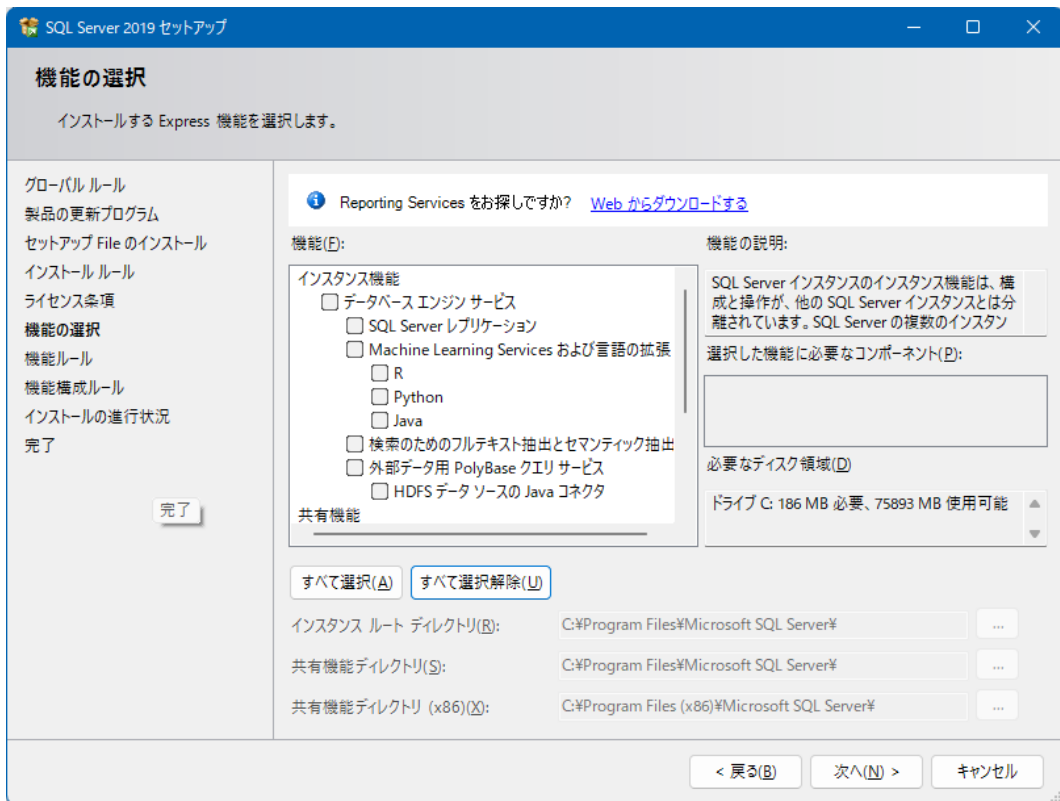
下記のライセンス条項に同意するにチェックを入れて「次へ」をクリックします。



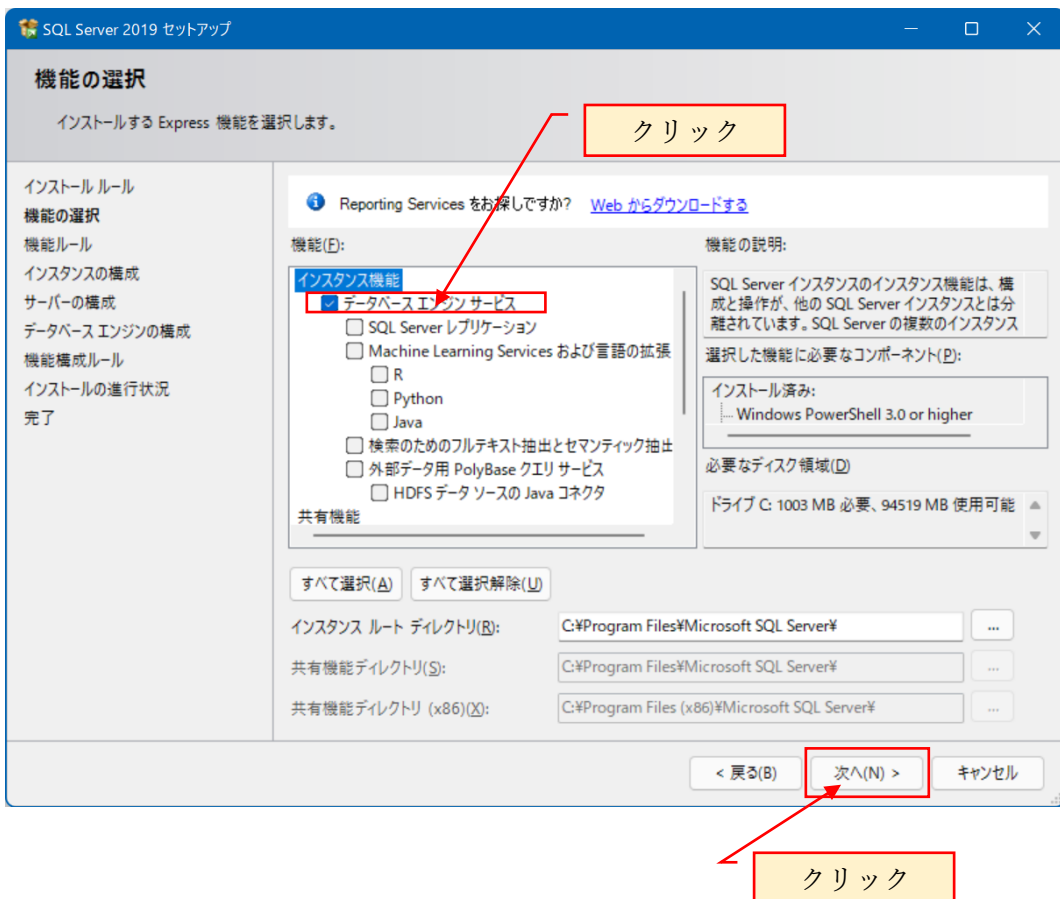
機能の選択で、「すべて選択解除」をクリックします。



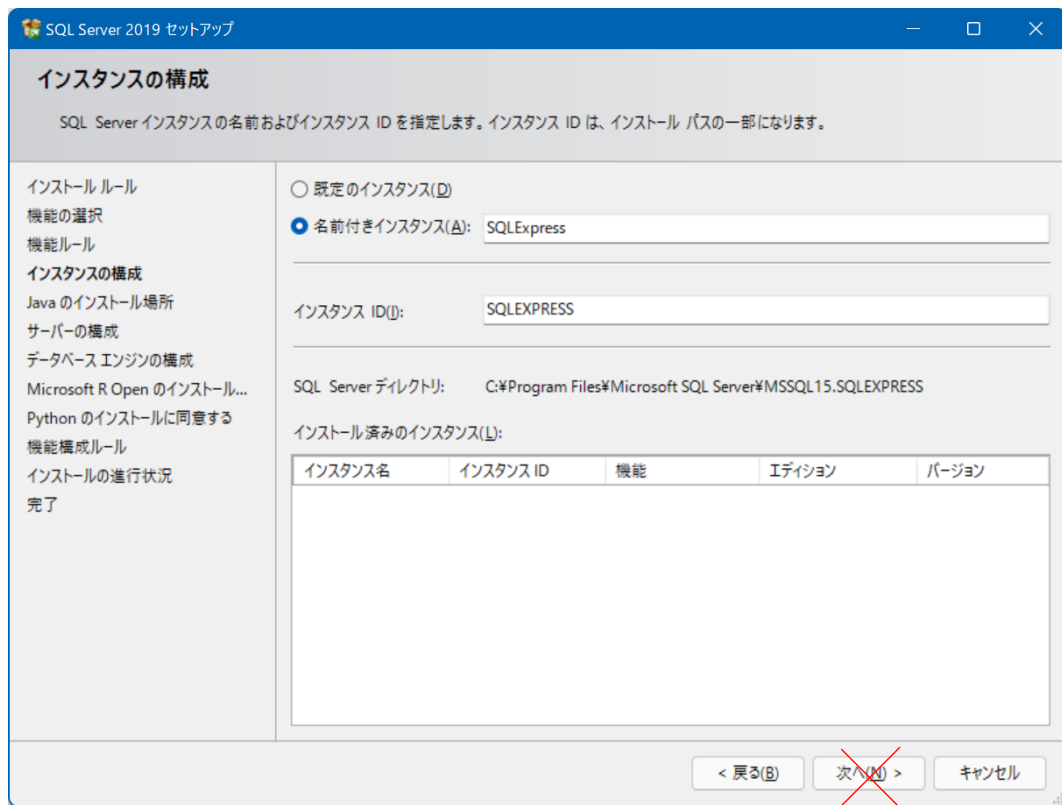
全ての選択が解除されている事を確認します。



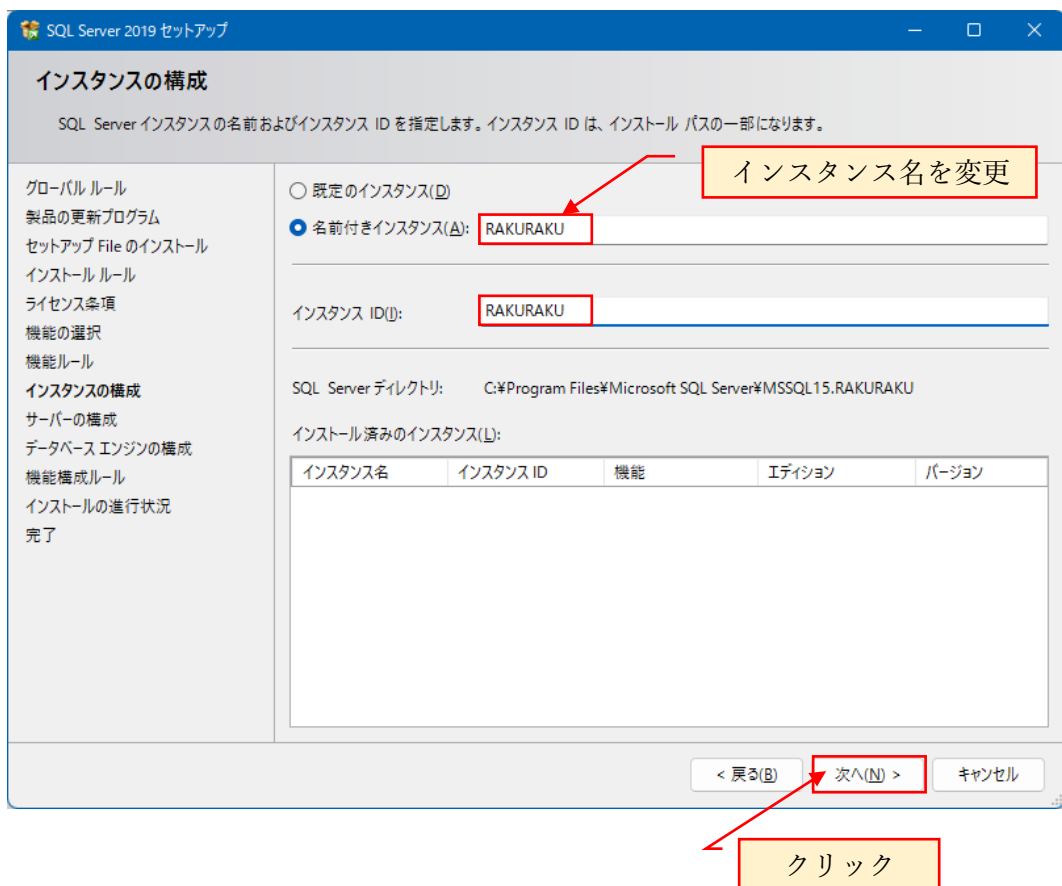
データベースエンジンサービスのみにチェックを入れます。

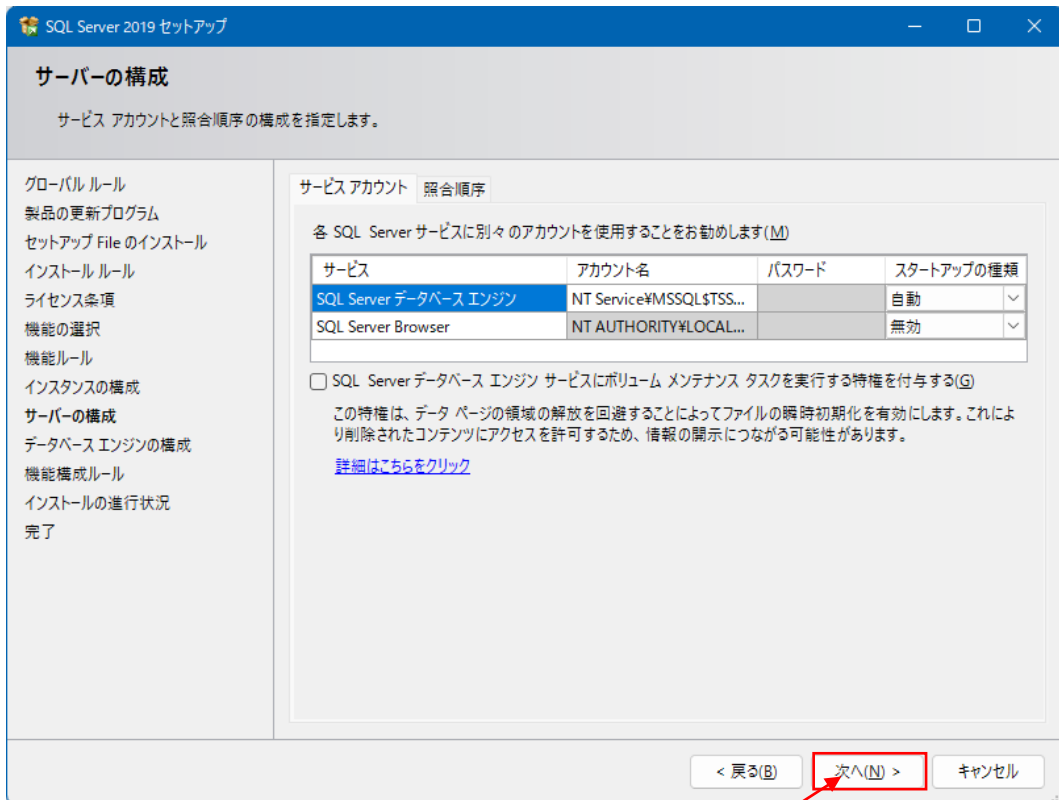


デフォルトのインスタンス名「SQLExpress」が表示されている事を確認します。



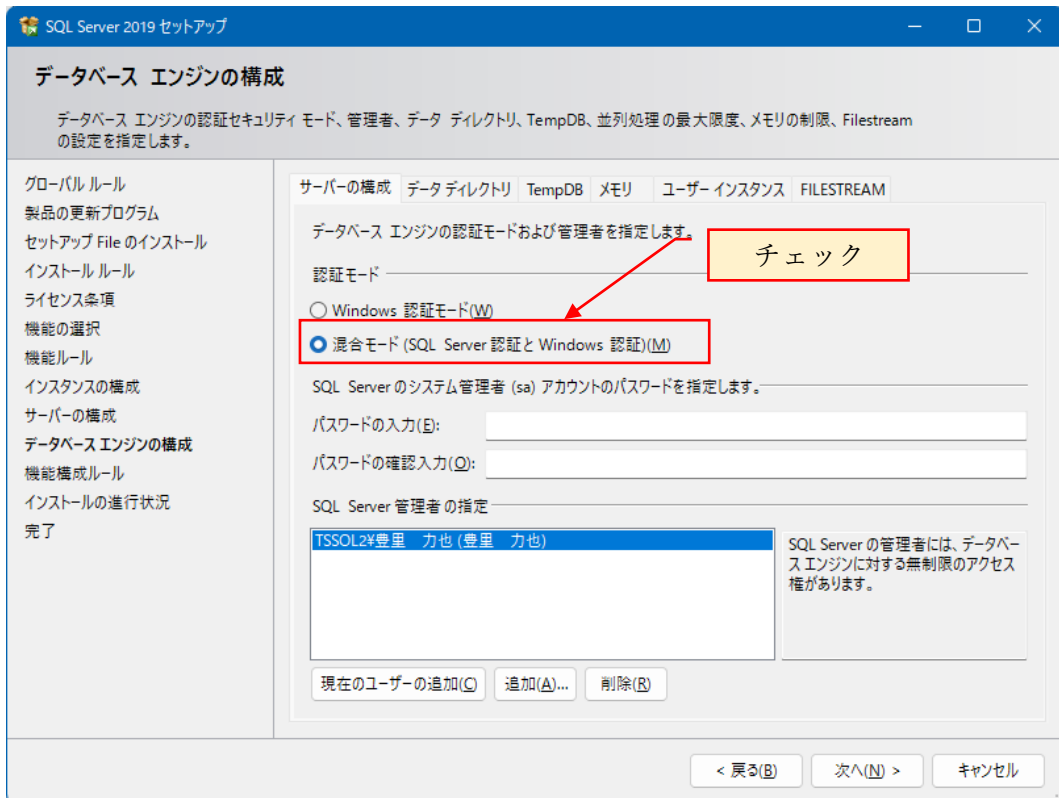
ここで、インスタンス名を SQLExpress から RAKURAKU に変更します。





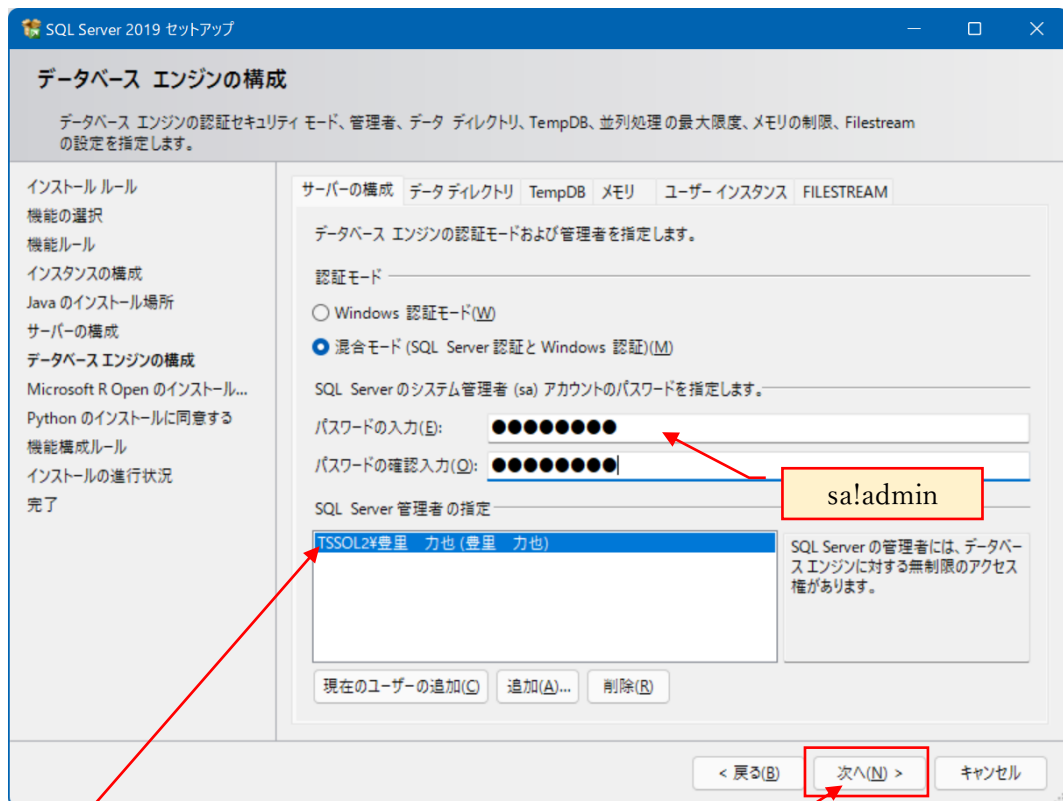
クリック

Windows 認証がデフォルトで選択状態となっています。これを SQL Server 認証と Windows 認証の混合モードに変更します。



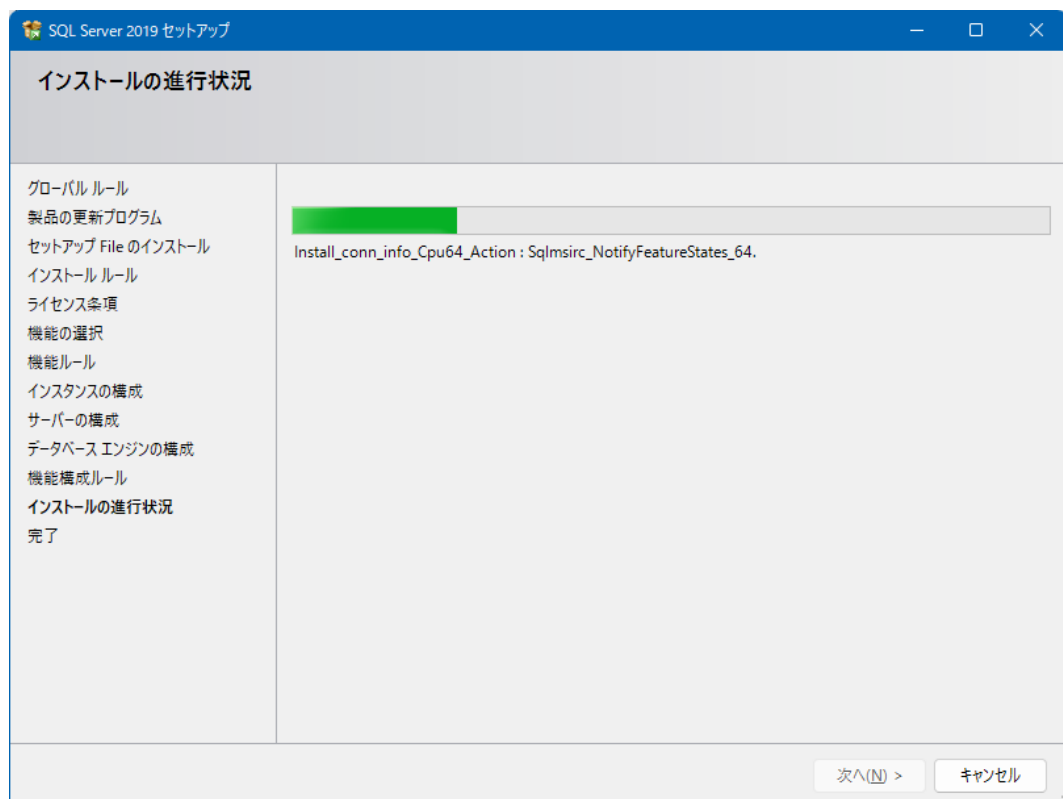
sa アカウントのパスワード : sa!admin

パスワードの確認入力も同じパスワードを入力します。

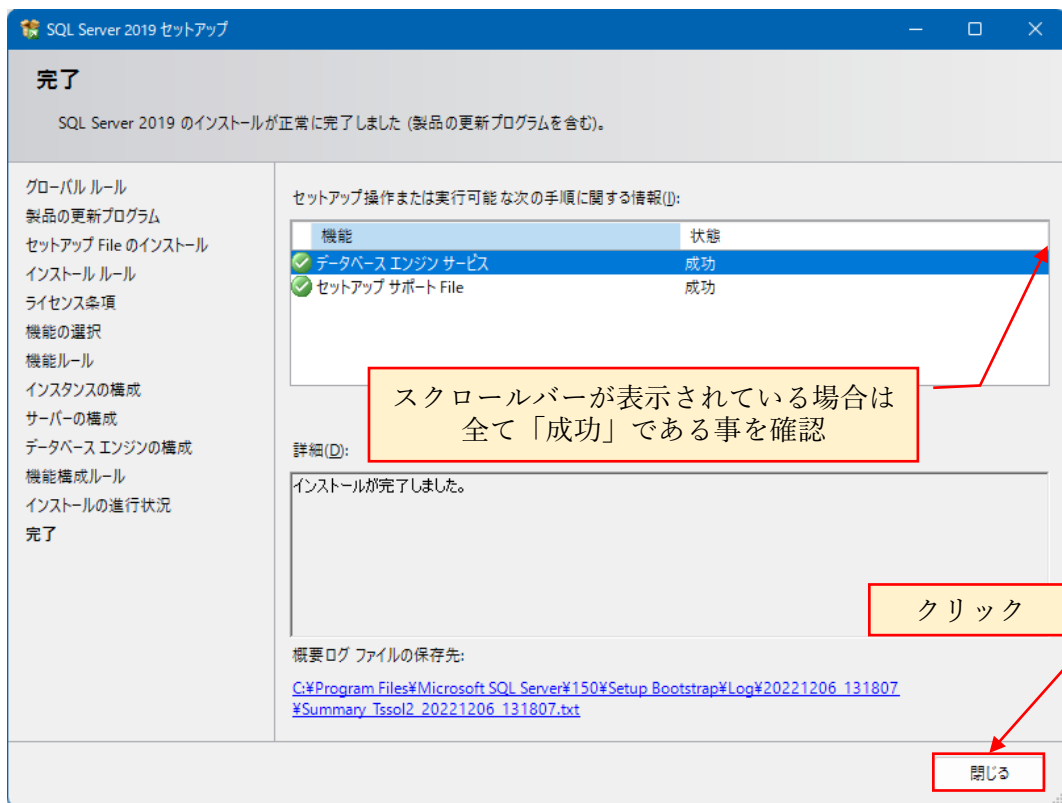


P C の環境によって表示は異なります

クリック



完了画面が表示されます。



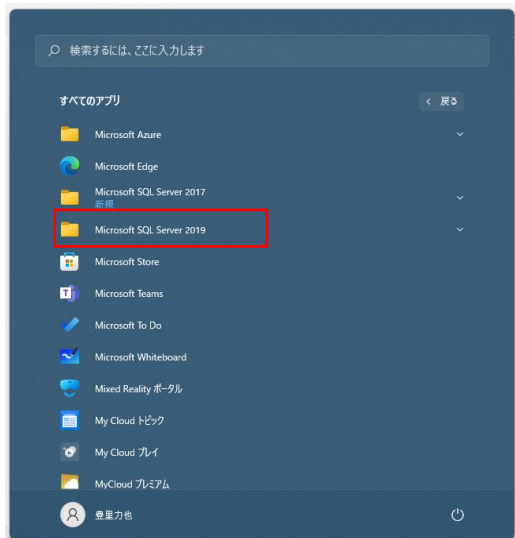
表示される機能は、既に SQL Server がインストールされている環境か新規にインストールする環境下によって異なります。

インストールされた機能が全て「成功」となっている事を確認し、「閉じる」をクリックしてインストールを終了します。

インストールを完了するため、再起動します。

SQL Server がインストールされると、スタートメニューに表示されます。

スタートメニューに Microsoft SQL Server 2019 が表示されているかを確認します。



これで、Microsoft SQL Server 2019 Express のインストールは終了です。

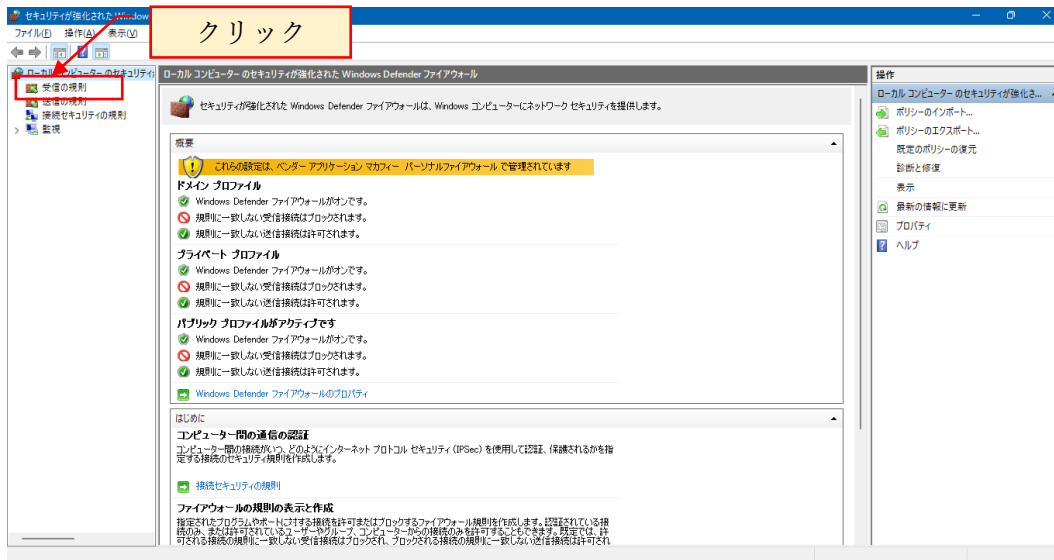
### 3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する

既に TCP1433 と UDP1434 ポートが解放されている場合は、この章を Skip します。

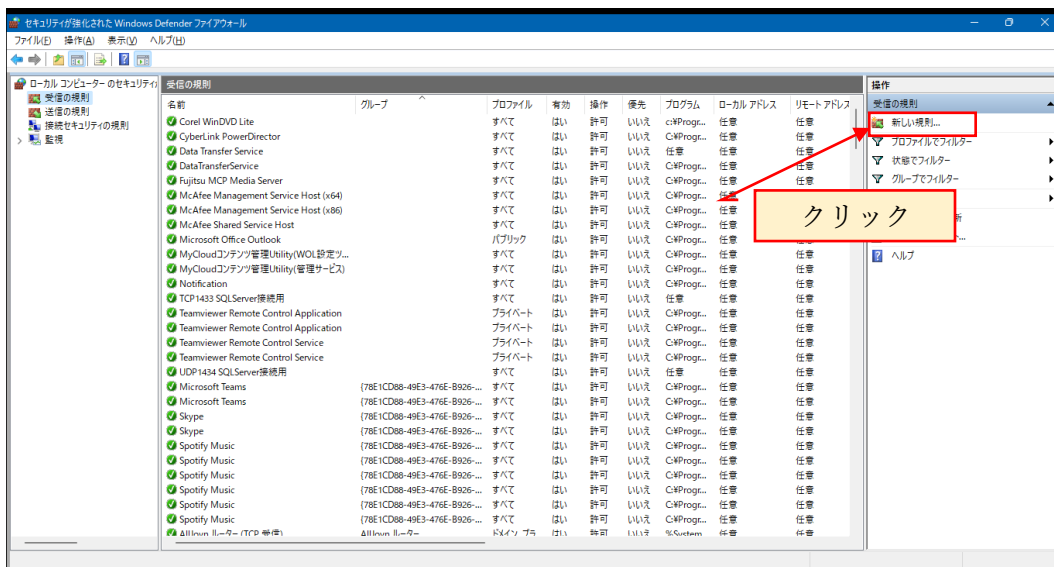
Windows Server の場合は、サーバーマネージャーを開き、「Windows ファイアウォール」の設定をクリック。

Windows10/Windows11 の場合は、コントロールパネル>システムとセキュリティ>Windows Defender ファイアウォール画面を開き、詳細設定をクリックします。

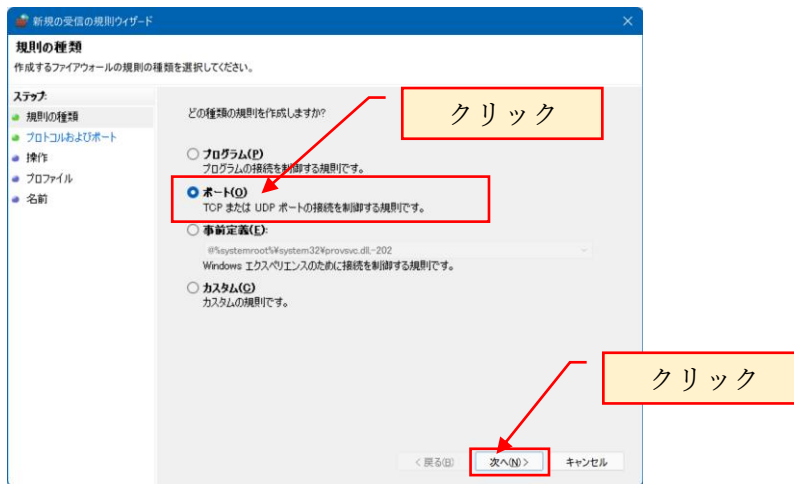
下記の例は、Windows11 での画面を示しています。



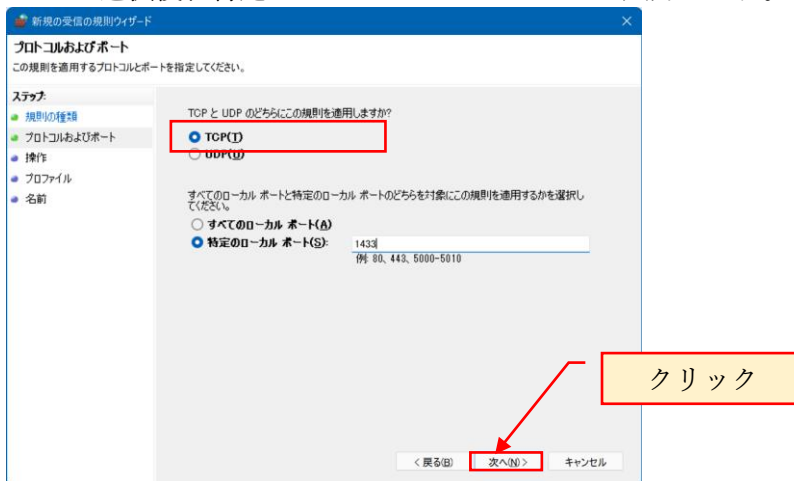
新しい規則をクリックします。

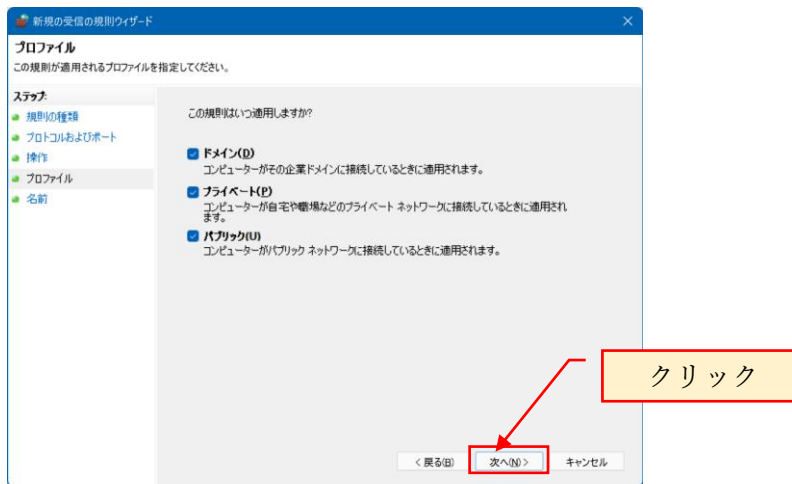




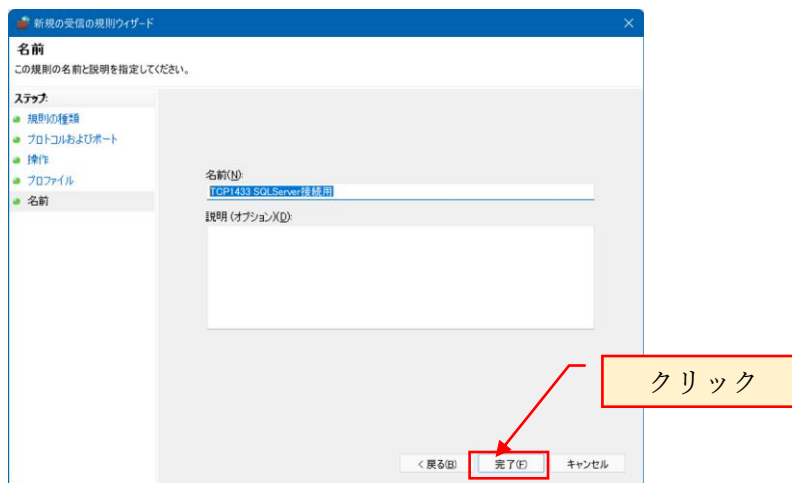


TCP を選択後、特定のローカルポートに 1433 と入力します。

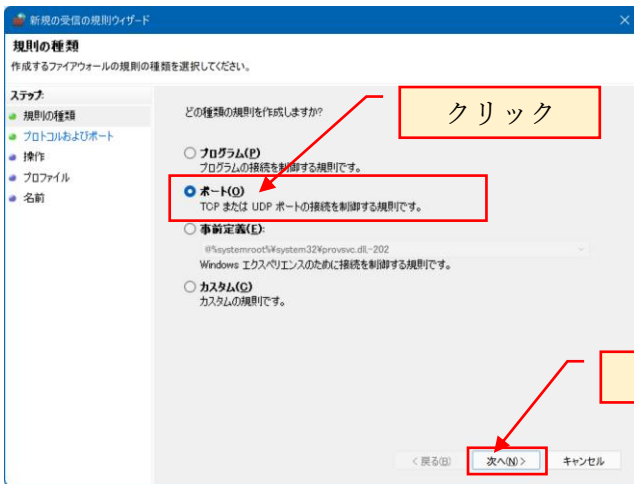
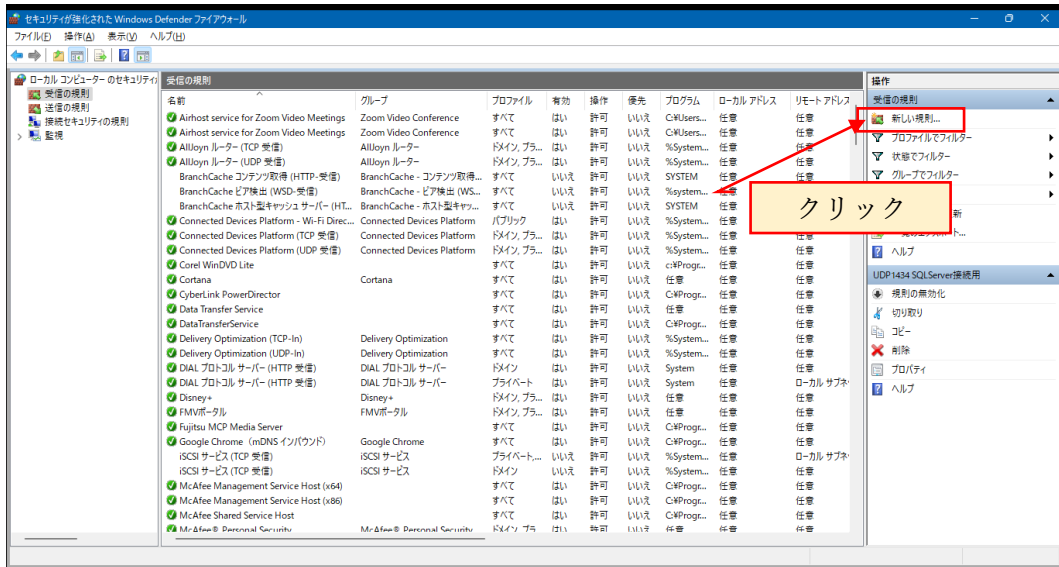




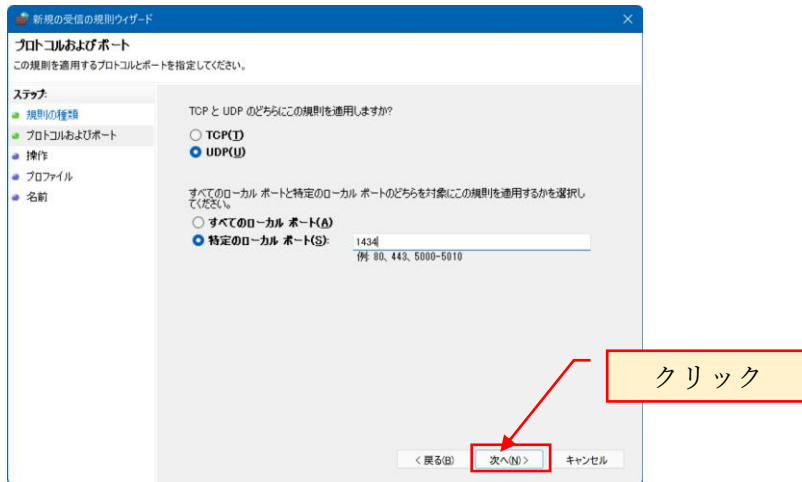
名前には自由に設定できますが、ここでは「TCP1433 SQLServer 接続用」とします。

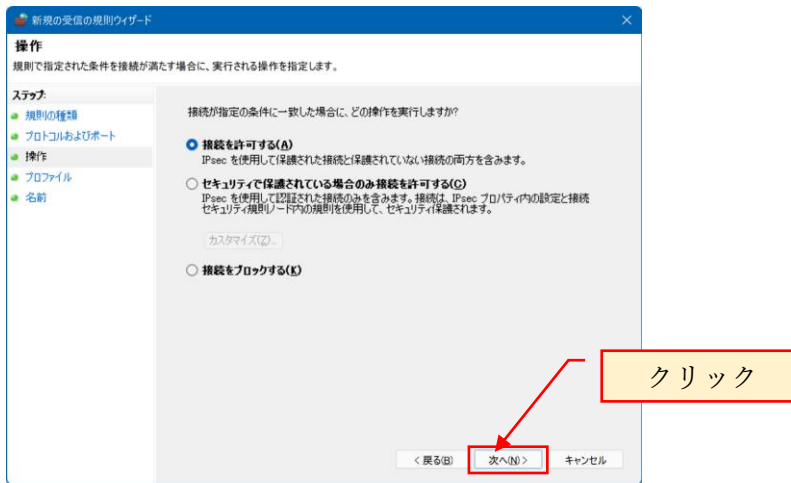


続いて、UDP ポートを設定します。

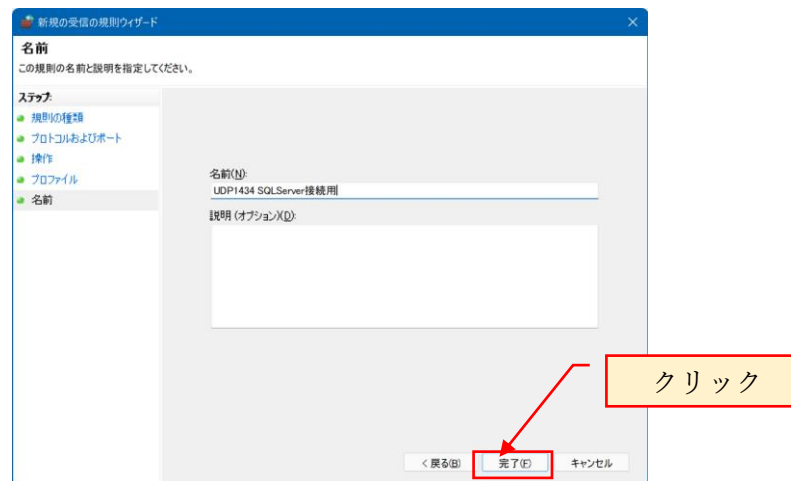


UDP を選択後、特定のローカルポートに 1434 と入力します。





名前には自由に設定できますが、ここでは「UDP1434 SQLServer 接続用」とします。

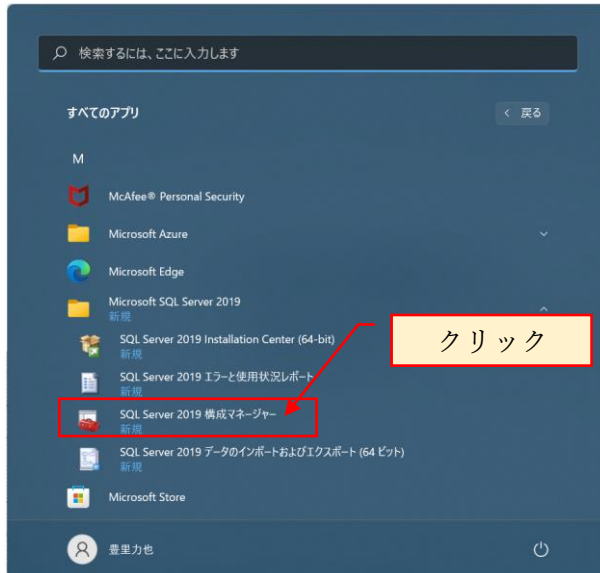


上記で TCP1433 ポートと UDP1434 ポートの解放は完了です。  
Windows ファイアウォールの設定画面を終了します。

## 4. TCP/IP を有効にする

SQL Server2019 構成マネージャを起動して、TCP/IP を有効化します。  
SQL Server2019 構成マネージャは、スタートメニューから起動します。

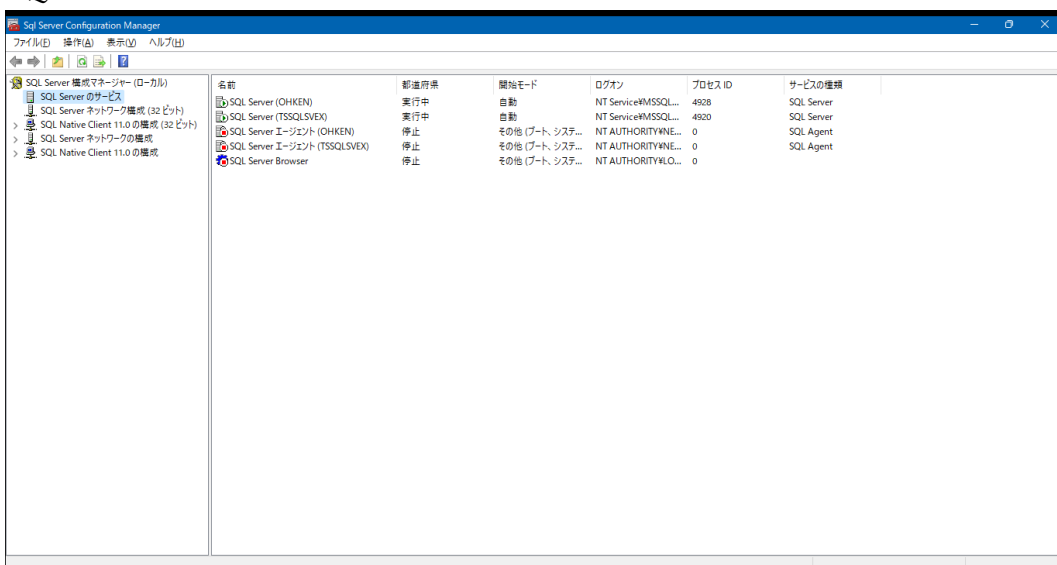
以下、TCP/IP を有効化する手順を示します。



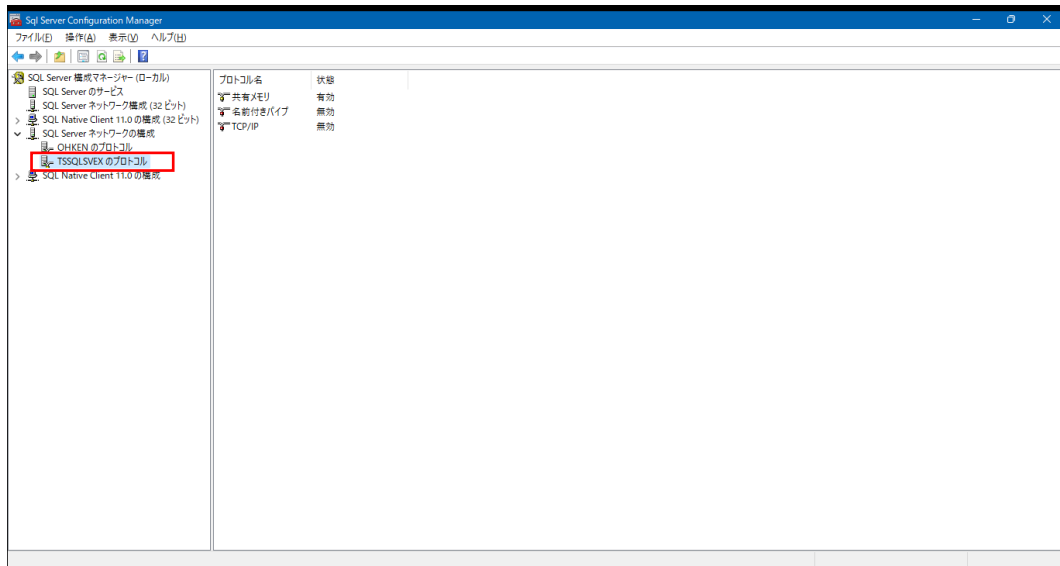
スタートメニューに SQL Server 2019 構成マネージャが表示されない時は、スタートファイル名を指定して実行の検索ボックスに SQLServerManager15.msc と入力すると構成マネージャが起動されます。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。

SQL Server 2019 構成マネージャが起動されます。

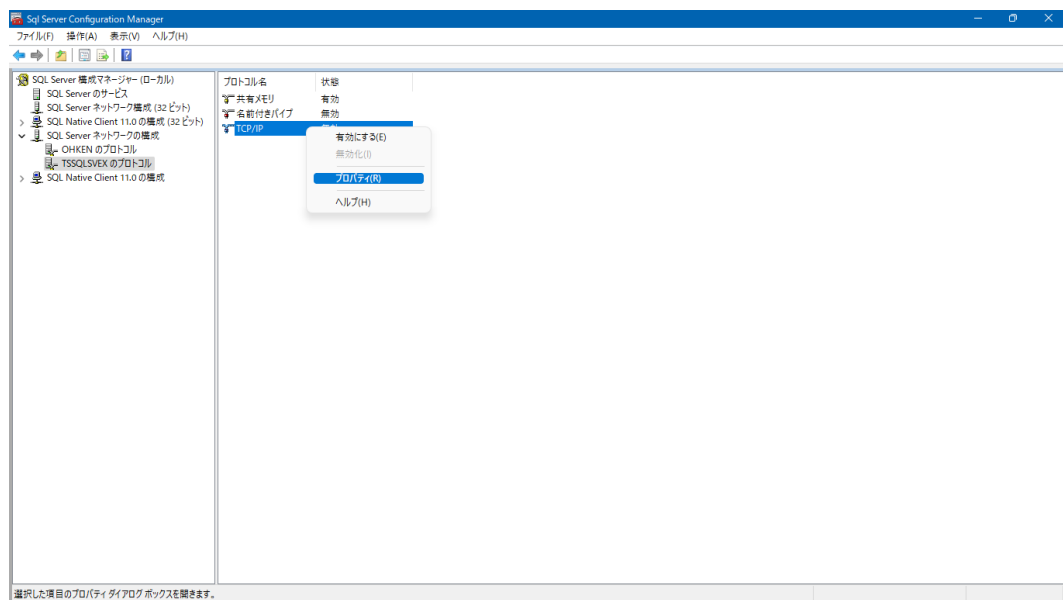


SQL Server ネットワークの構成を展開し、表示される RAKURAKU のプロトコルを選択します。

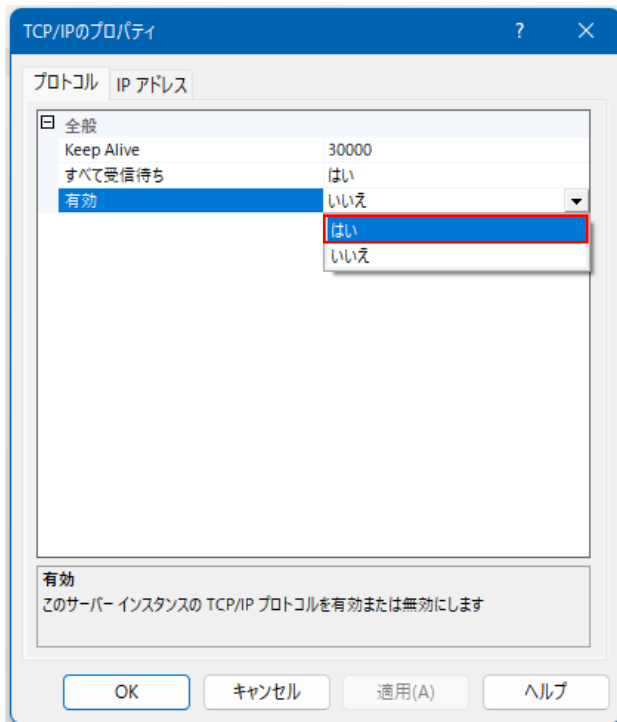


TCP/IP が無効となっている事を確認します。

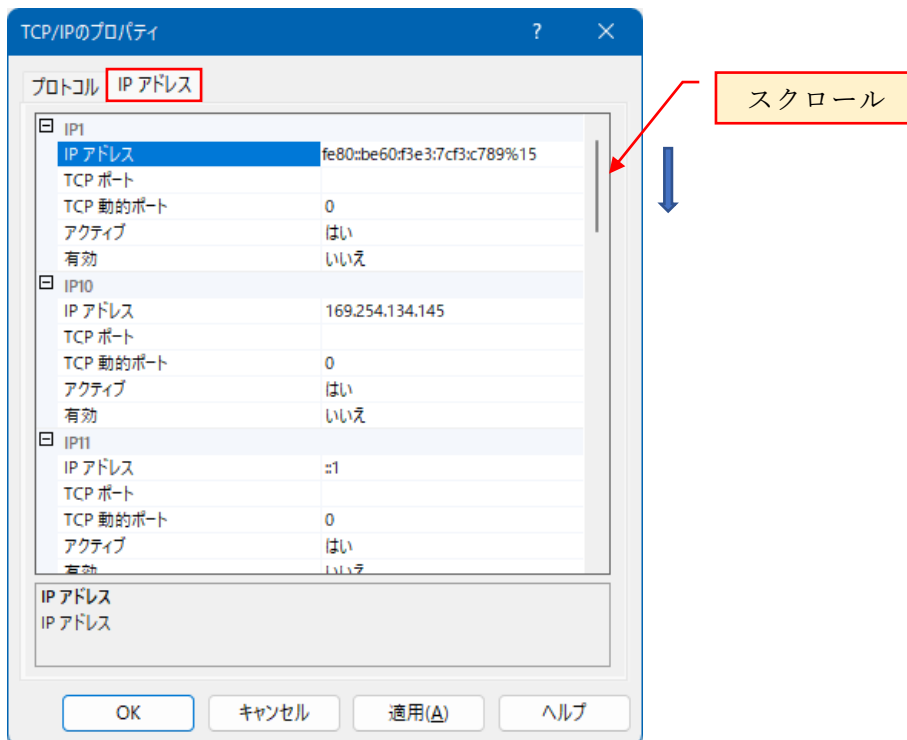
TCP/IP を右クリックしプロパティを選択します。



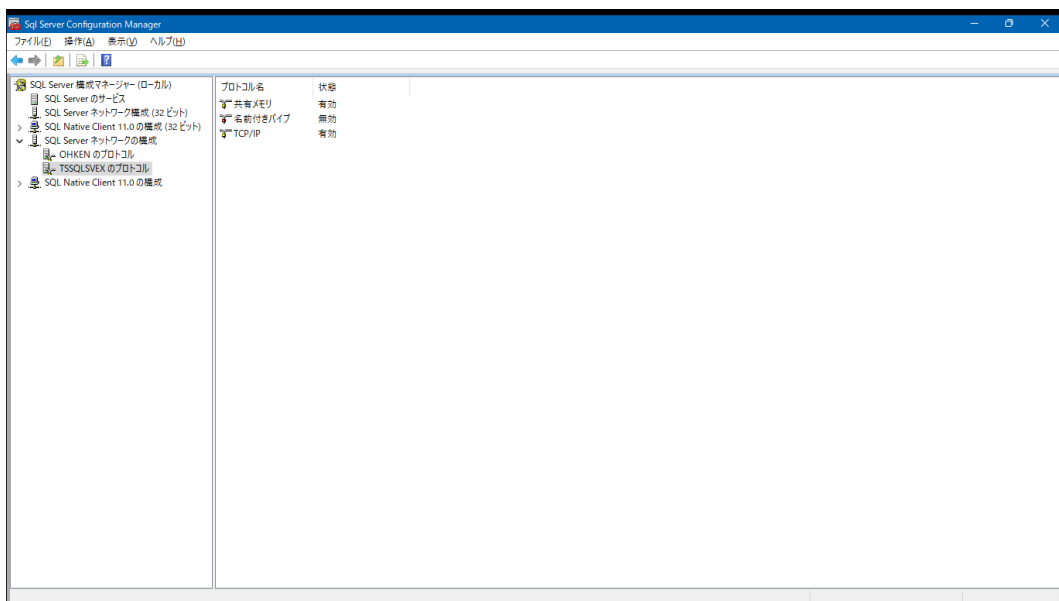
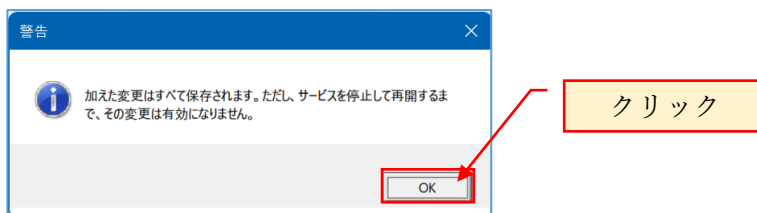
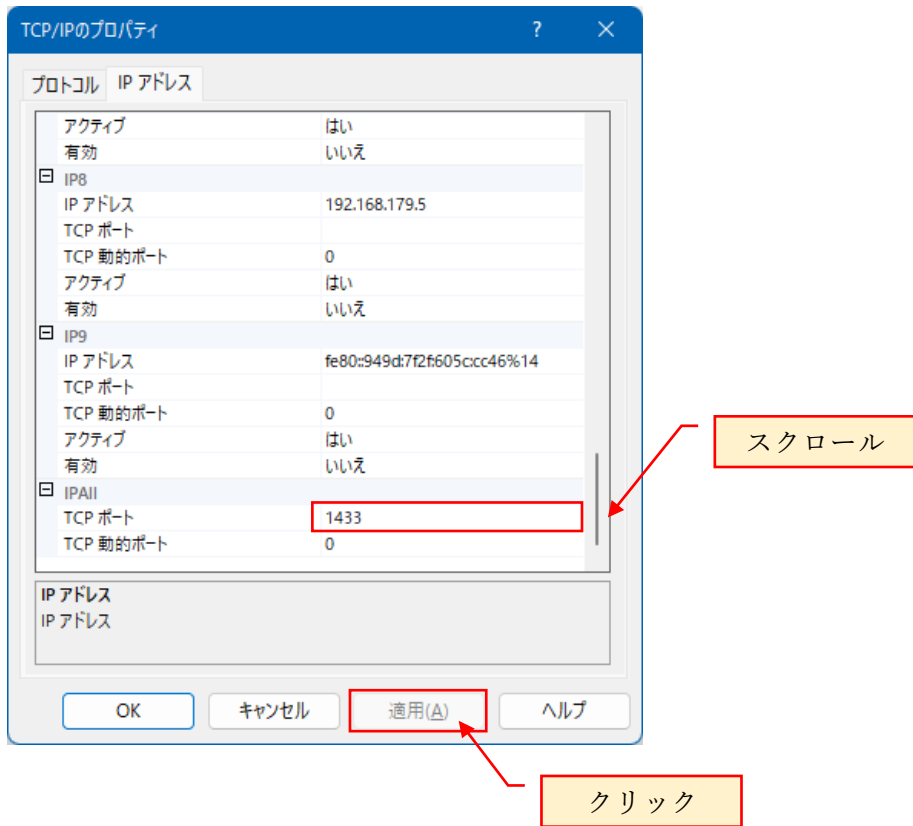
TCP/IP のプロパティでプロトコルタブの有効から「はい」を選択します。



TCP/IP プロパティの IP アドレスタブを選択します。



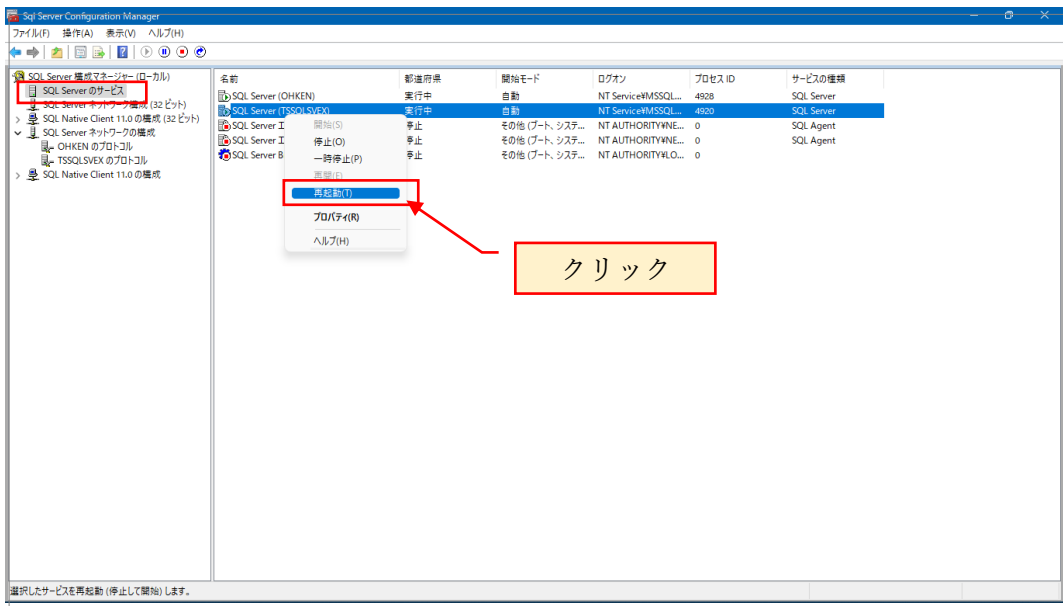
TCP/IP プロパティの IP アドレスタブにある IPALL の TCP Port に **1433** を指定します。





SQL Server を下記手順で再起動します。

SQL Server のサービスを選択し、RAKURAKU を選択して右クリックして表示される「再起動」をクリックします。



自動で切り替わります。

上記で、SQL Server が再起動されます。

以上で、TCP/IP の有効化が完了です。

SQL Server 構成マネージャーを終了します。

参考：

TCP/IP の有効化が無効のままの場合、SQLServer の接続でインスタンス名を RAKURAKU を指定した場合、TCP ポート 1433 を指定しての接続でエラーとなります。

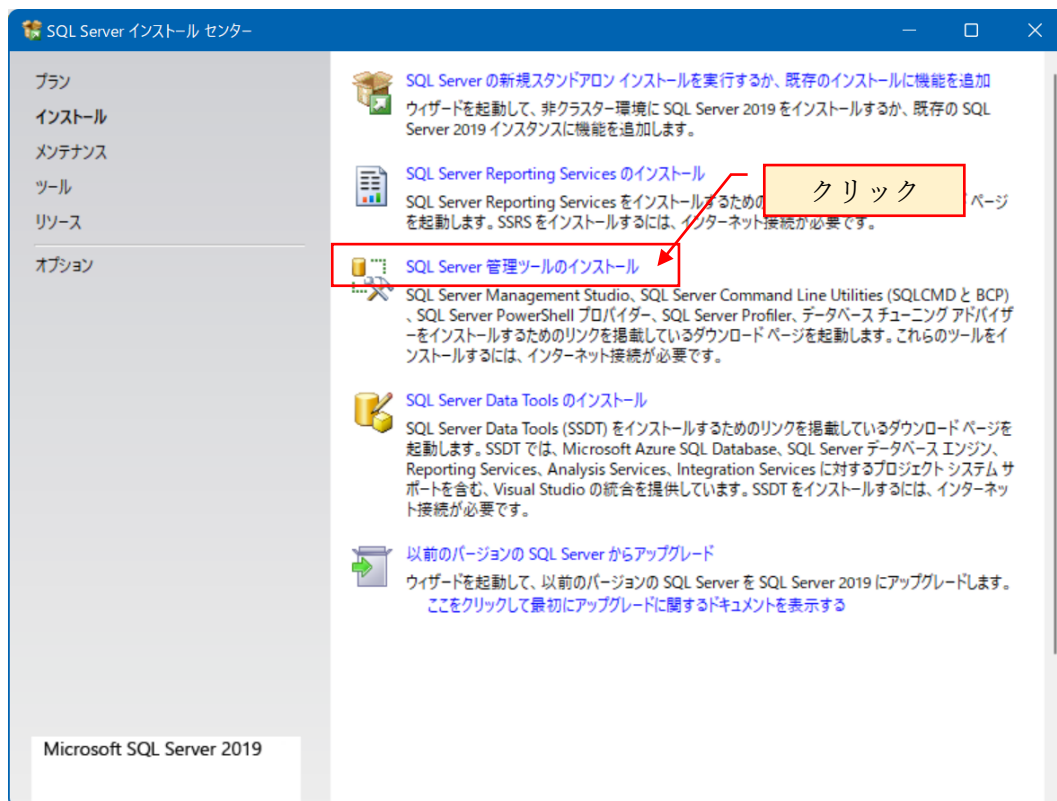
## 5. SQL Server Management Studio をインストールする

SQL Server 管理マネージャの Microsoft SQL Server Management Studio をインストールします。

SQL Server インストールメディアのダウンロード先は、標準では以下の通りです。

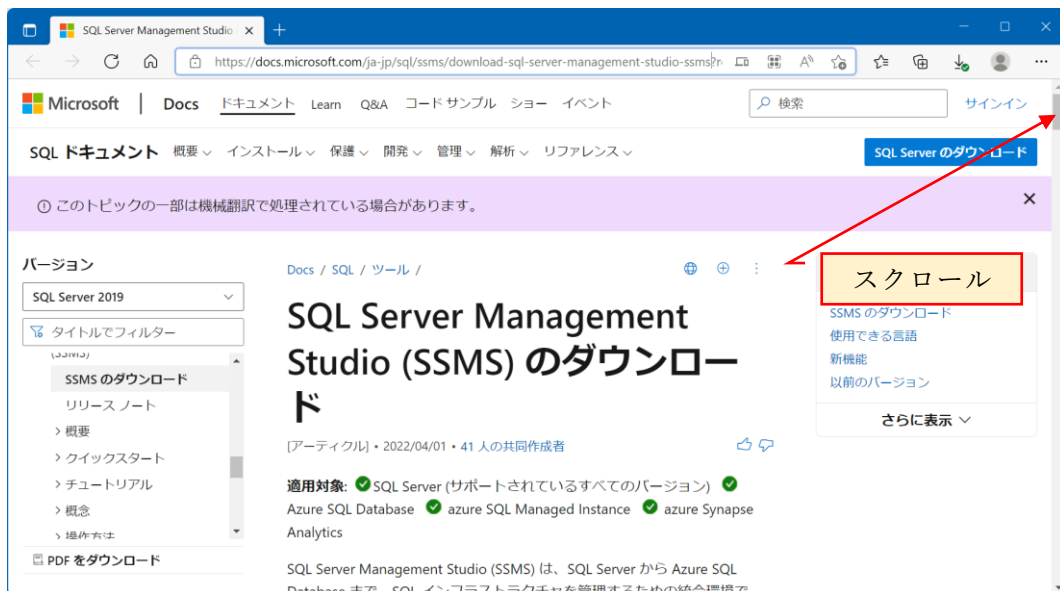
C:\¥SQL2019¥ExpressAdv\_JPN

上記のフォルダ内にある SETUP.EXE を実行すると、SQL Server のインストールセンターが開かれます。

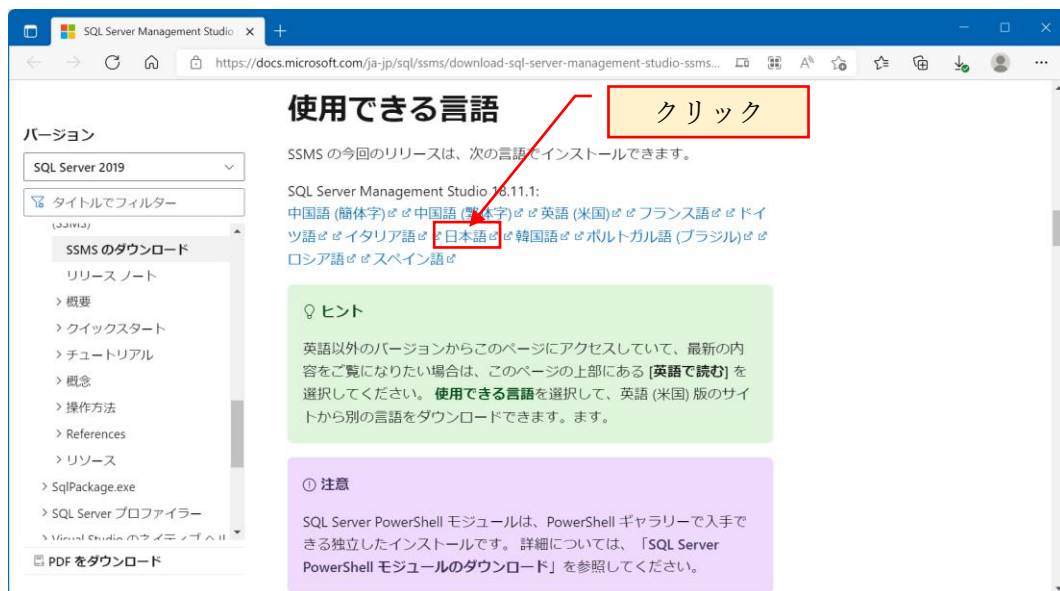


上記以外に、下記のサイトからも SQL Server Management Studio のインストーラをダウンロードできます。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?redirectedfrom=MSDN&view=sql-server-ver15>

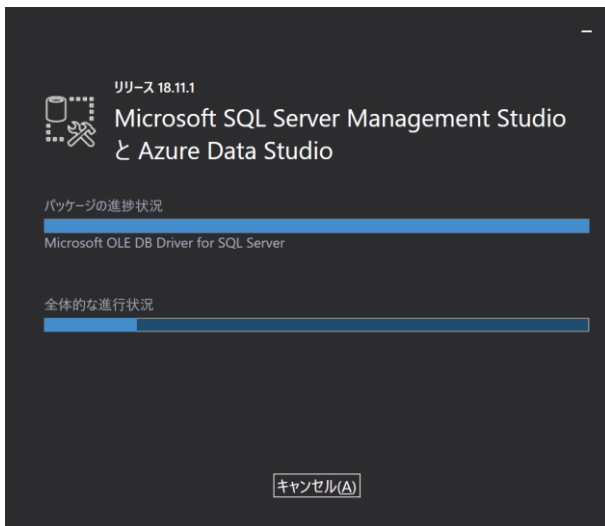


上記の画面を下方にスクロールし、「使用できる言語」と表示されている項目の「日本語」をクリックすると、SQL Server Management Studio の日本語版をダウンロードします。

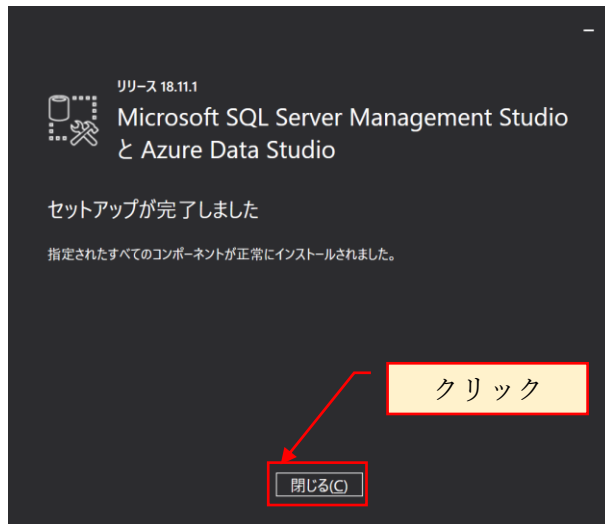


ダウンロードが完了すると、ダウンロードフォルダに SSMS-Setup-JPN.exe が格納されています。

SSMS-Setup-JPN.exe を実行すると、SQL Server Management Studio のインストールが開始されます。



インストールが完了すると、下記の画面が表示されます。



SQL Server インストールセンターを閉じます。

## 6. SQL Server の設定

### Microsoft SQL Server Management Studio 起動

起動方法は、スタートメニューの Microsoft SQL Server Tools 18<sup>※1</sup>を展開し表示される Microsoft SQL Server Management Studio 18 をクリックして起動します。



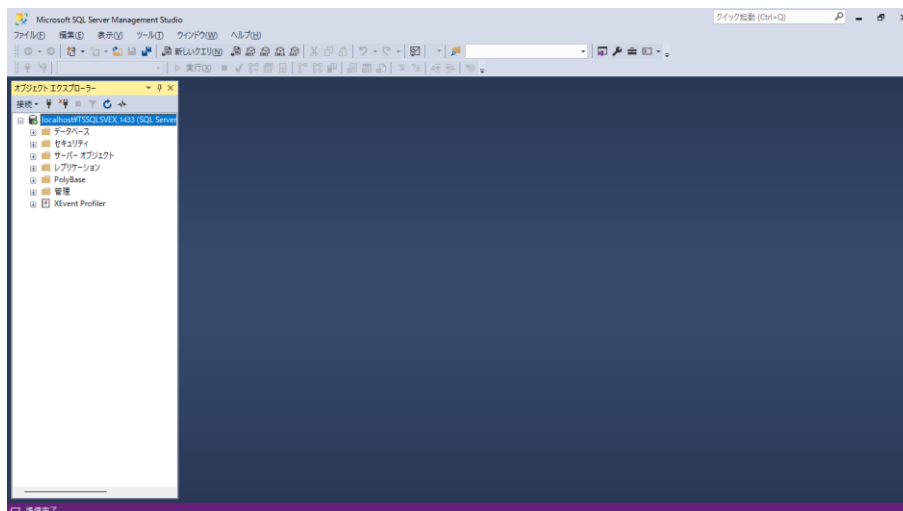
※1 導入時点のバージョンによって異なります。

### 6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。

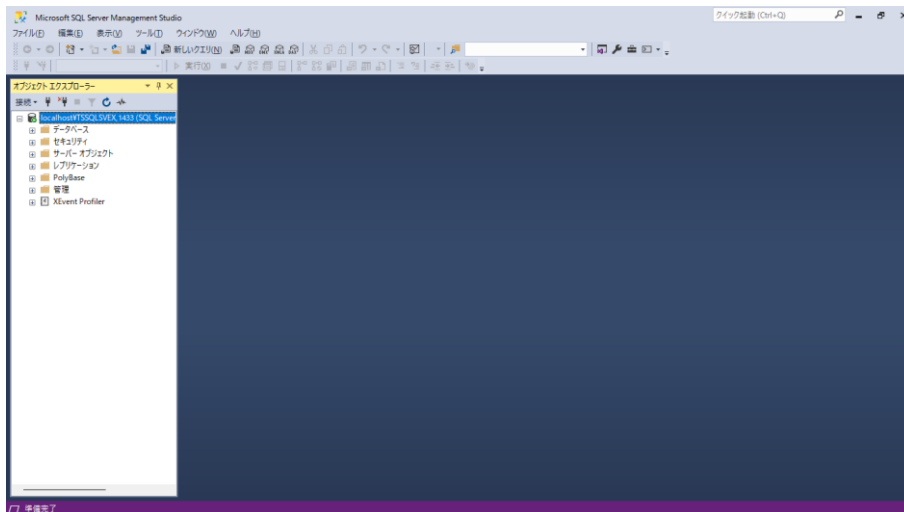
サーバ名：localhost¥RAKURAKU,1433



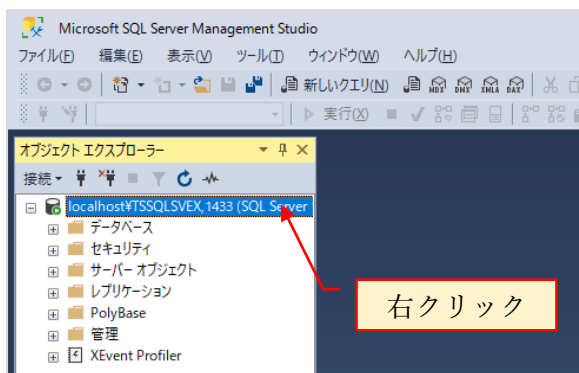
正常に起動される事を確認します。



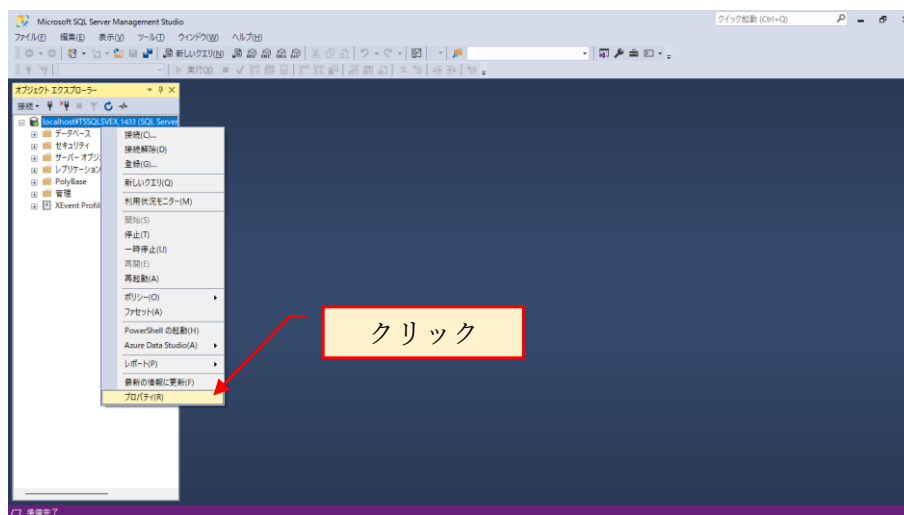
6.2 リモート接続が許可されている事を確認します。



オブジェクトエクスプローラの localhost\TSSQLVEX,1433 (SQL Server) を選択し右クリック

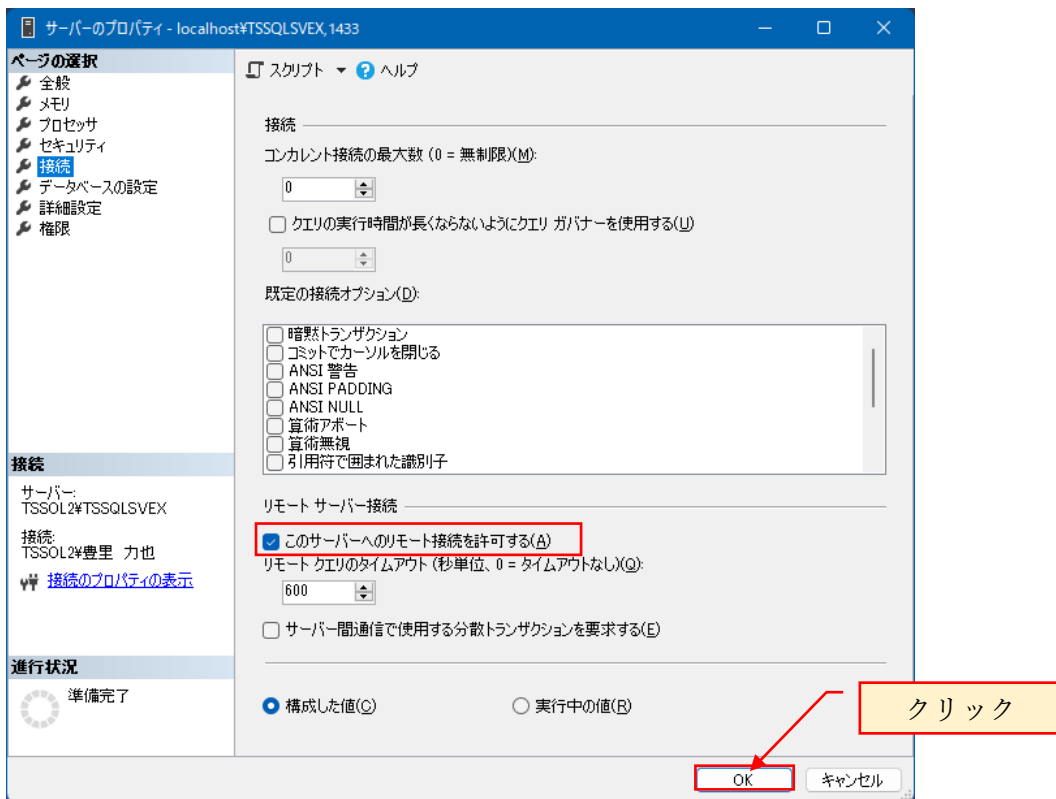


プロパティを選択



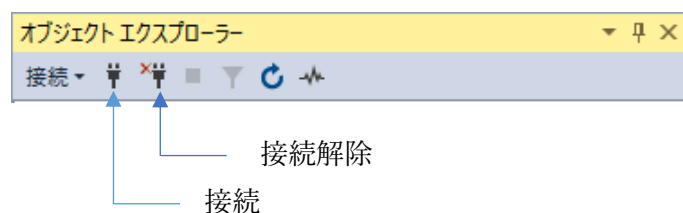
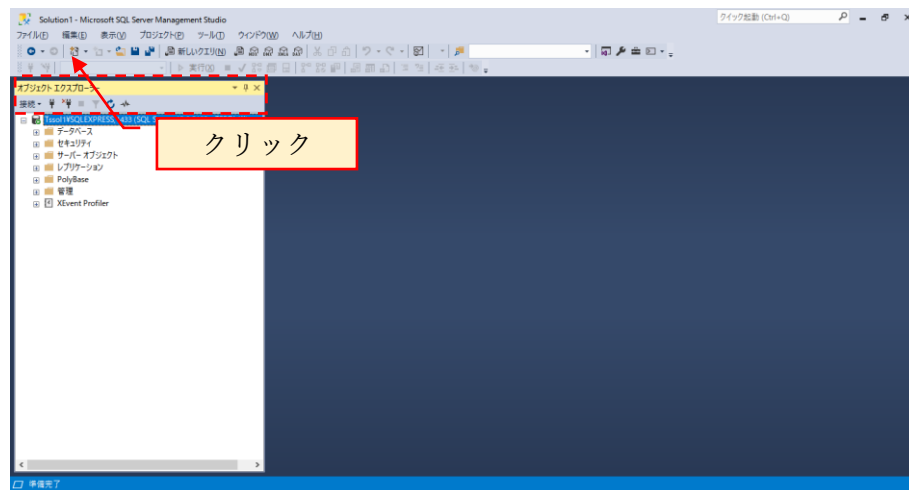
ページの選択で「接続」を選択し、このサーバへのリモート接続を許可するにチェックが入っていることを確認します。

チェックが入っていない場合はチェックを入れて[OK]をクリックします。



SQL Server Management Studio で SQL Server の接続を切断します。

切断方法は、接続解除をクリックします。

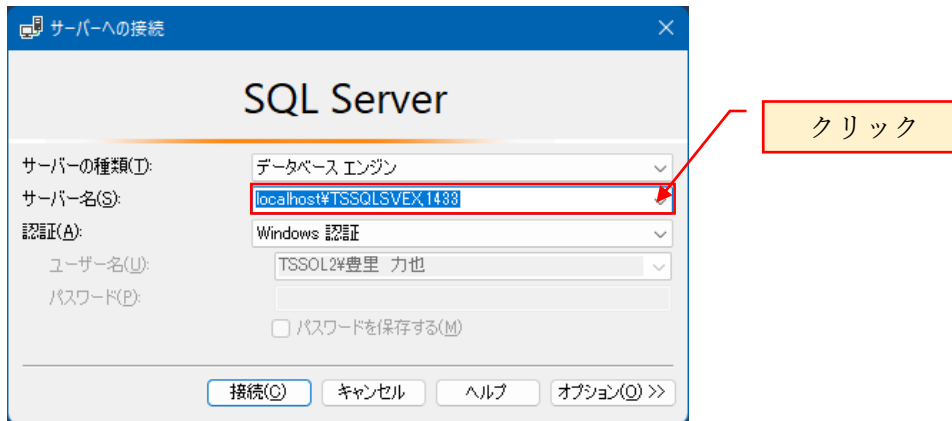


切断をクリックすると、現在の接続 (Windows 認証) を切断します。

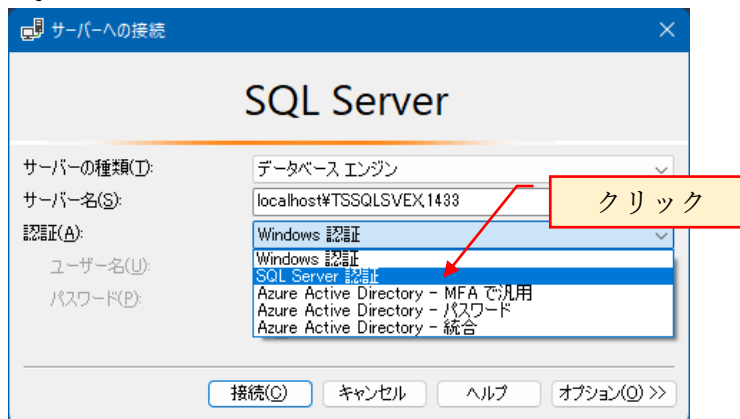
次項で、SQL Server 認証で接続の確認を行なうため、「接続解除」をクリックします。

6.3 sa アカウントでログインできるか確認します。

SQL Server Management Studio を起動し、(既に起動されている場合は接続をクリック) サーバ名 : localhost¥RAKURAKU,1433 と入力します。

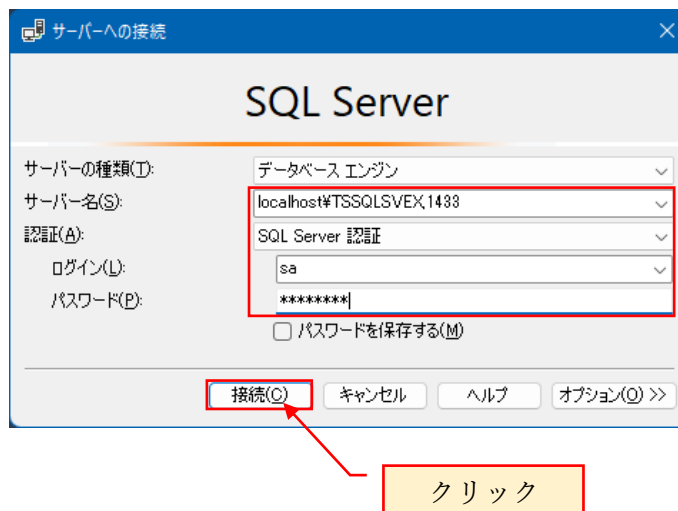


SQL Server 認証を選択します。



ログイン : sa

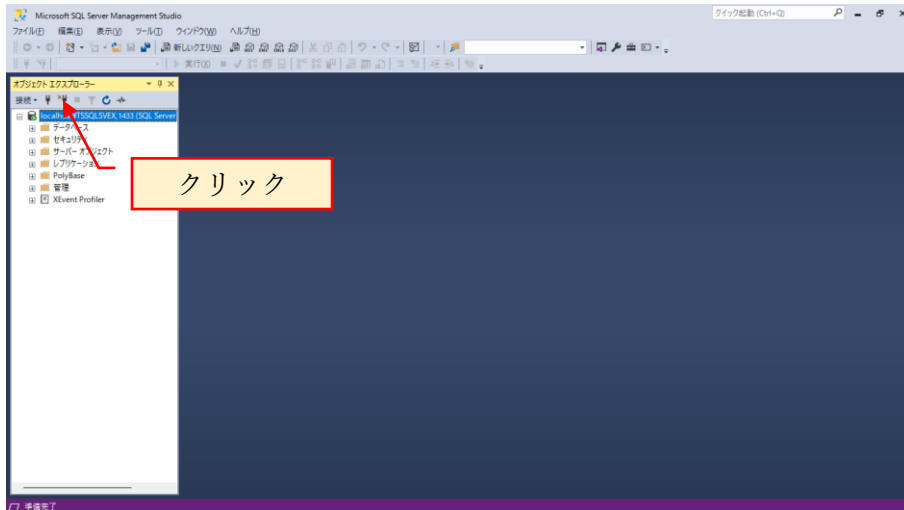
パスワード : sa!admin



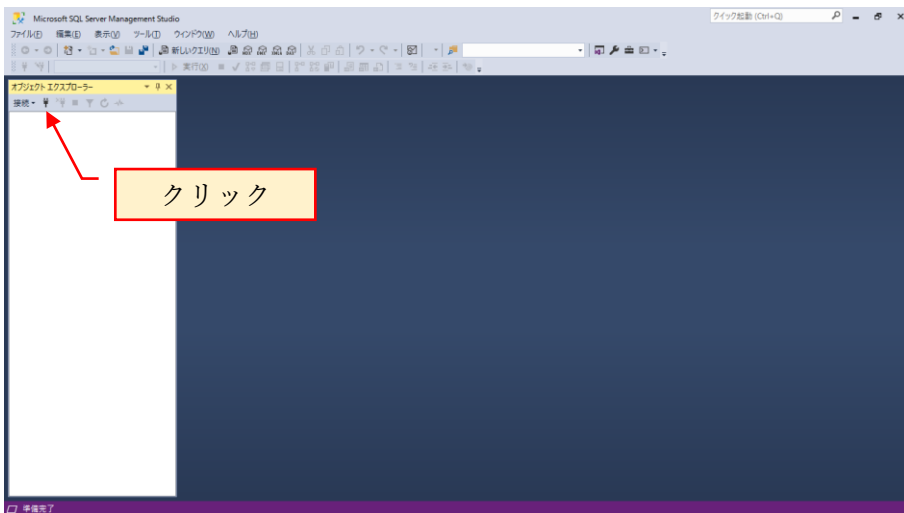
sa アカウントは、データベース全体の保守用で、らくらく電子取引では使用しません。



正常に起動される事を確認し、「接続解除」をクリックします。



「オブジェクトエクスプローラを接続」をクリックすると、「サーバへの接続」ダイアログを表示できます。



サーバへの接続ダイアログが表示されます



#### 6.4 新しいログイン名の作成

らくらく電子取引のアプリケーションで SQL Server にログインするためのアカウントを作成します。

Windows 認証でログインし直します。



新しいログイン名を作成します。

作成するアカウントは、eDocBiz

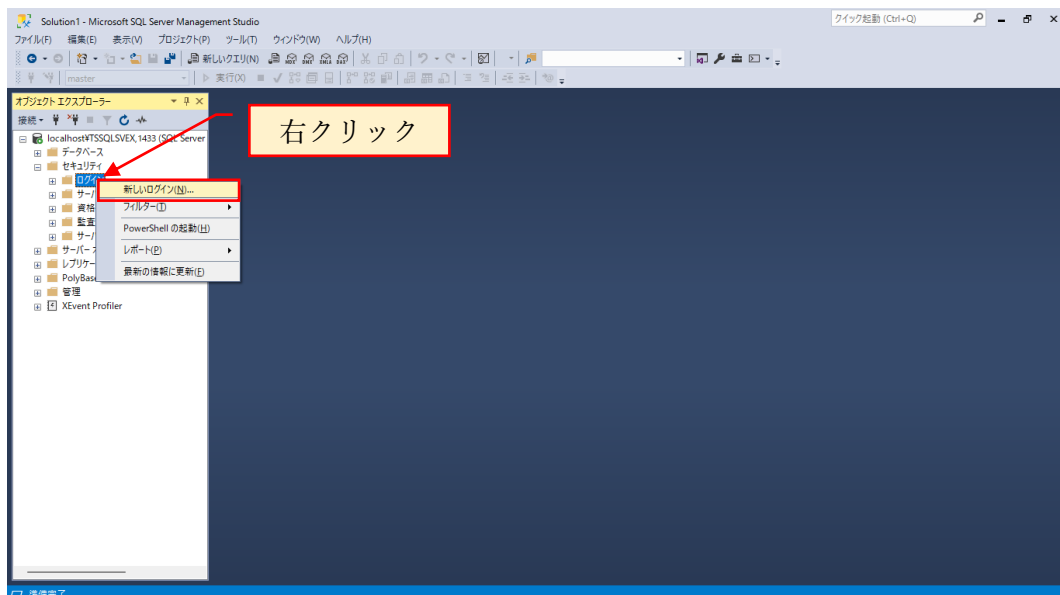
SQL Server 認証

ログイン名は eDocBiz

パスワードは eDocBiz!admin

ここで作成するアカウント「eDocBiz」は、らくらく電子取引のプログラムがデータベースにアクセスするためのアカウントとなります。

下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラの「セキュリティ」を+をクリックして展開し、表示される「ログイン」を選択して右クリックで表示される「新しいログイン」を選択します。



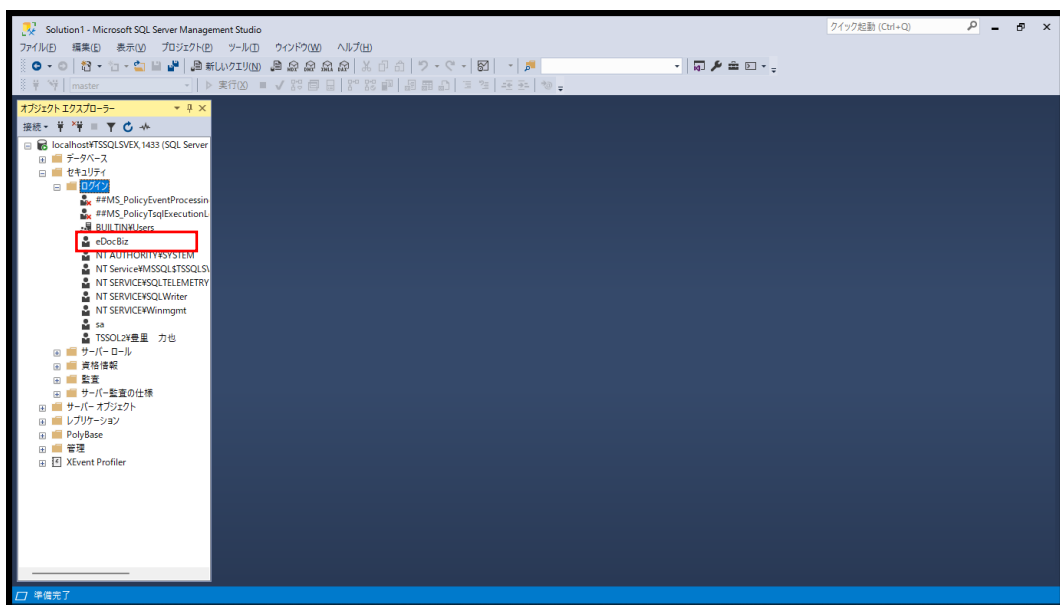
ログイン名：eDocBiz

SQL Server 認証を選択

パスワード：eDocBiz!admin

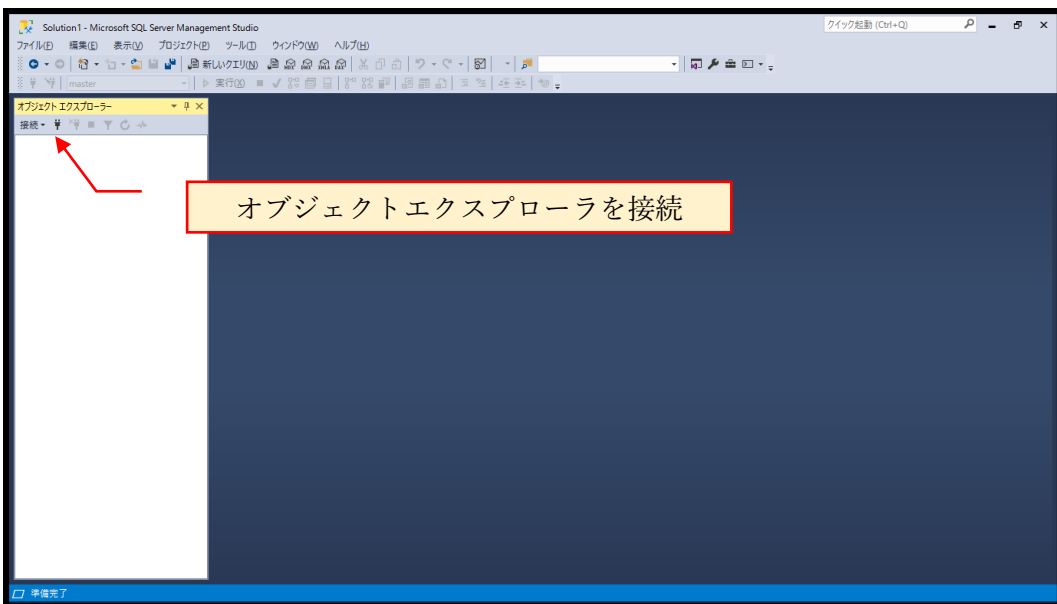
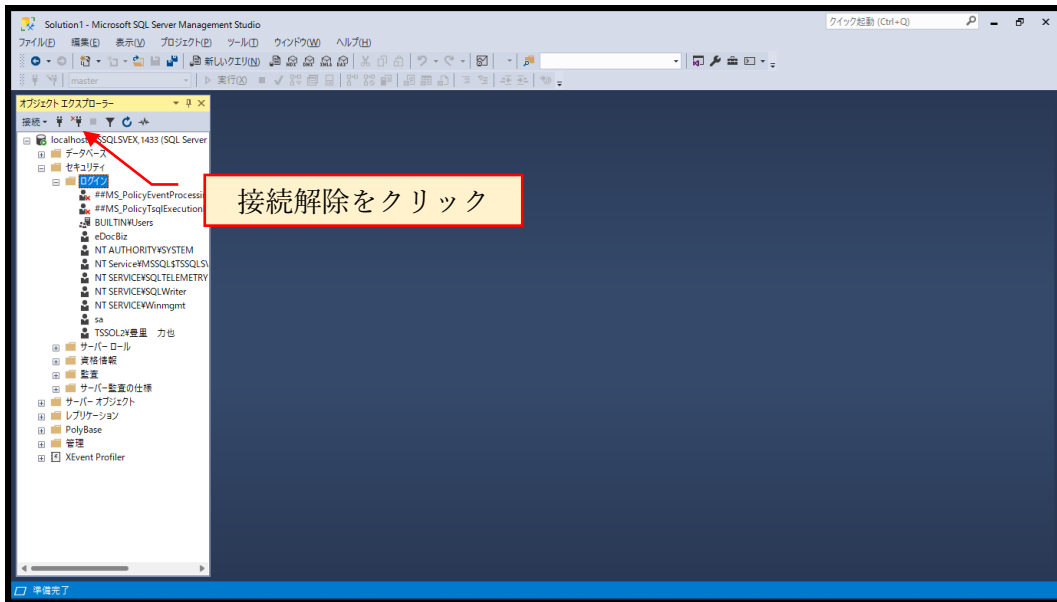
上記を入力したら「OK」をクリックします。

クリック



ログインに作成した eDocBiz が存在していることを確認します。

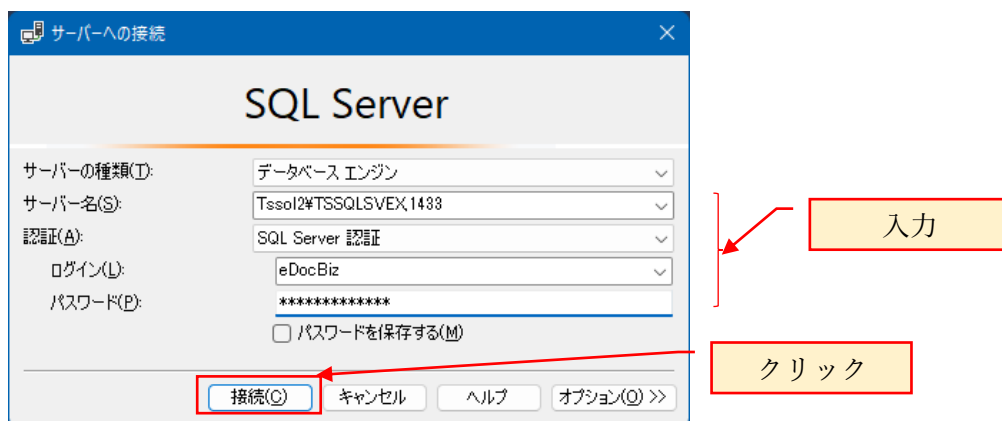
前項で作成した eDocBiz でログインできるか確認のため、現在の Windows 認証から SQL Server 認証に切替える必要があります。そのため、現在の接続を解除します。



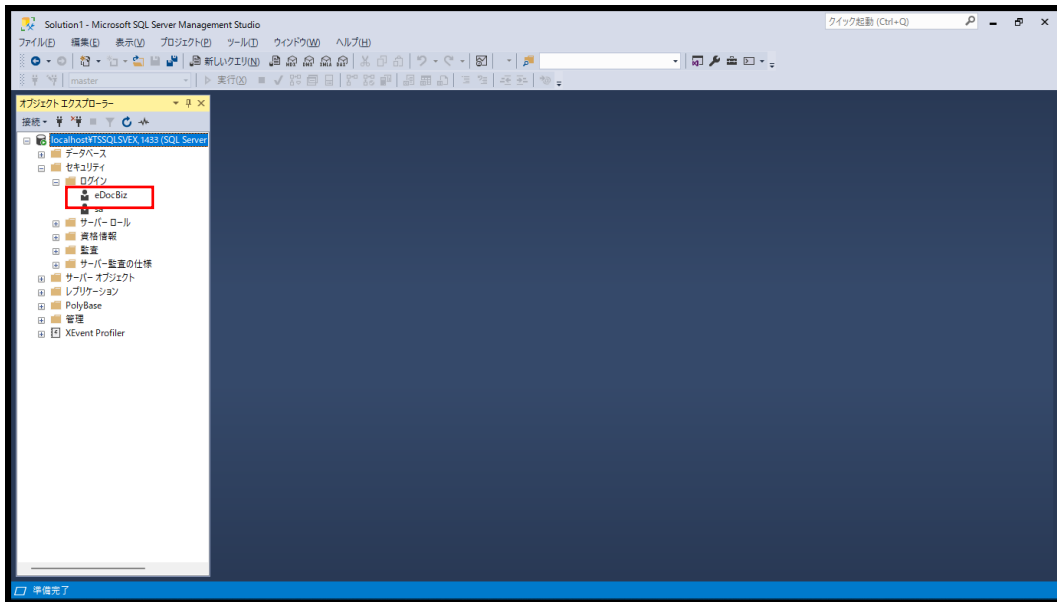
サーバ名： **ホスト名**¥RAKURAKU,1433

ホスト名は、SQL Server が動作する PC のコンピュータ名を入力します。

ログイン： eDocBiz、パスワード： eDocBiz!admin を入力し「接続」をクリック



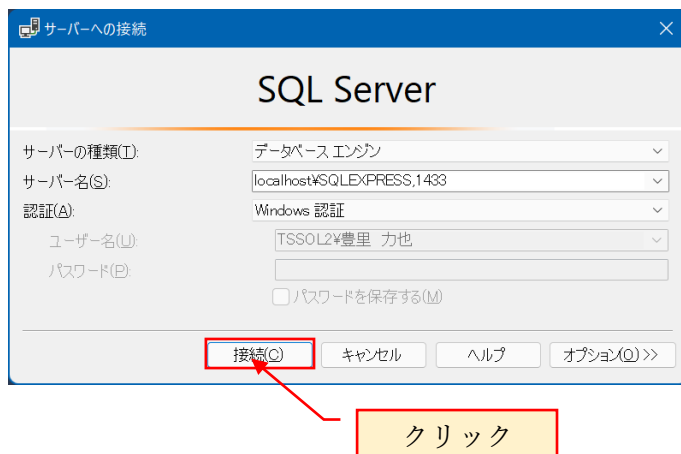
セキュリティを展開し、ログインの中に eDocBiz が存在している事を確認します。



ログインに eDocBiz が存在していれば、正しく作成された事が確認できます。

## 6.5 新しいデータベースの作成

Windows 認証でログインをし直してください。



作成するデータベースの情報：

データベース名：eDocBizdb

物理パス：例として下記のパスで作成しますが、任意に指定できます。

C:¥ eDocBizdb¥eDocBizdb.mdf

C:¥ eDocBizdb¥eDocBizdb\_log.ldf

データベースの初期サイズ：例として下記に示しますが、任意に指定できます。

行データ：256MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

ログ：64MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

上記以外の条件で対話形式で作成する場合は、別紙の「らくらく電子取引 SQLServer2019 インストールと設定手順書 6.5 新しいデータベースの作成」を参照してください。

上記の条件を変更する場合は、スクリプトファイルをメモ帳で開き、必要箇所を変更することも可能です。

本書では、上記の条件でデータベースを作成する sql スクリプトを実行して作成します。

スクリプトファイル名は、CreateDB\_eDocBizdb.sql

スクリプトファイルの格納場所は、らくらく電子取引ダウンロードサイトからダウンロードし、sqlscript フォルダ内に存在しています。

(1) データベース格納先のフォルダを作成する

データベースの作成場所はスクリプトファイル CreateDB\_eDocBizdb.sql で行なった場合は、C:¥eDocBizdb としています。

Cドライブ直下に、eDocBizdb という名前のフォルダを作成します。

格納場所を変更する場合は、CreateDB\_eDocBizdb.sql をメモ帳で開き、下記の箇所を変更して上書きします。

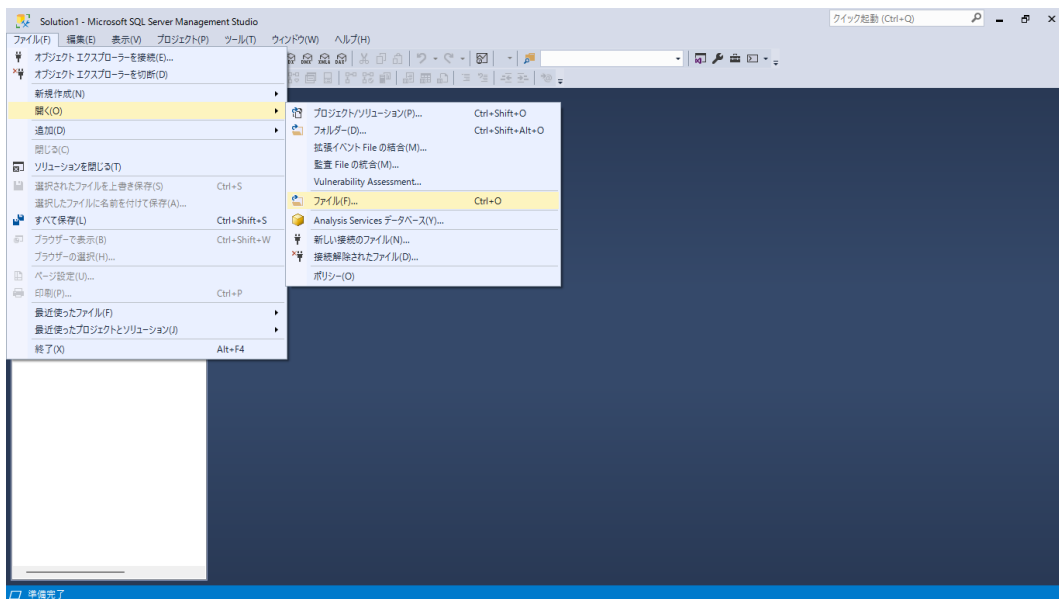
```
FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb.mdf'
```

```
FILENAME = N'C:¥eDocBizdb¥eDocBizdb_log.ldf'
```

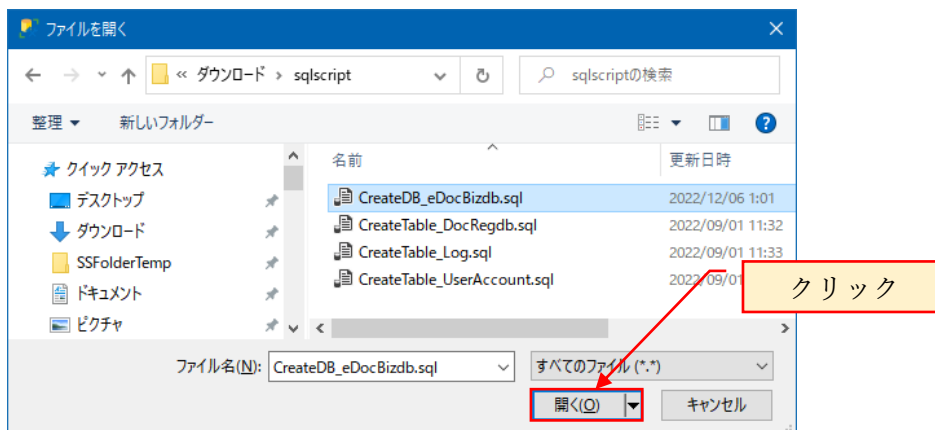
格納場所を変更した場合は、格納場所のフォルダを作成します。

(2) スクリプトファイルからデータベースを作成する

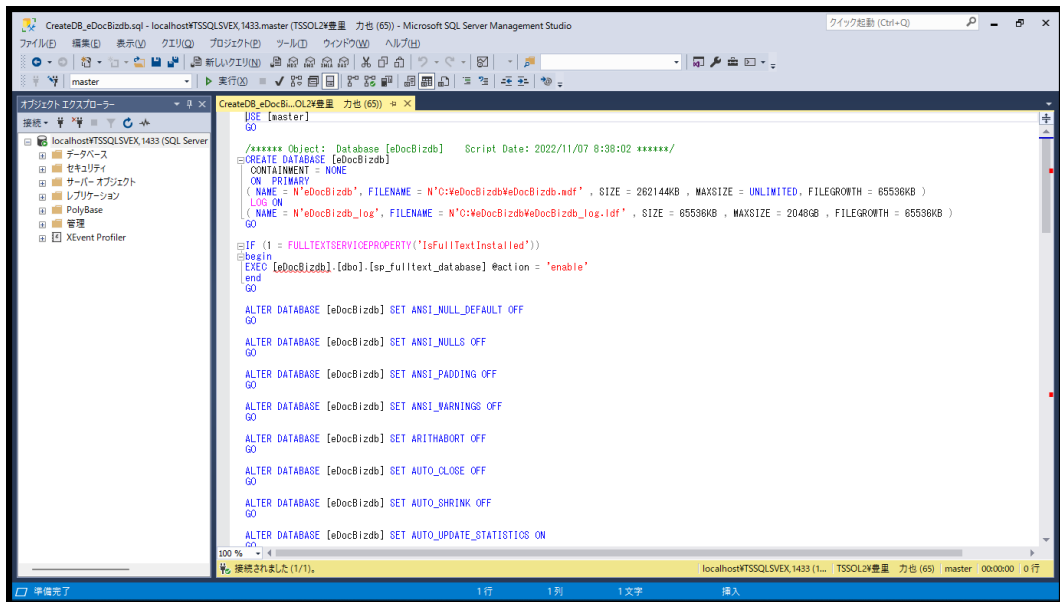
メニューバーのファイル→開く→ファイルを指定すると、ファイルダイアログが表示されます。



スクリプトが格納されているフォルダを開き、CreateDB\_eDocBizdb.sql を選択後「開く」をクリックします。

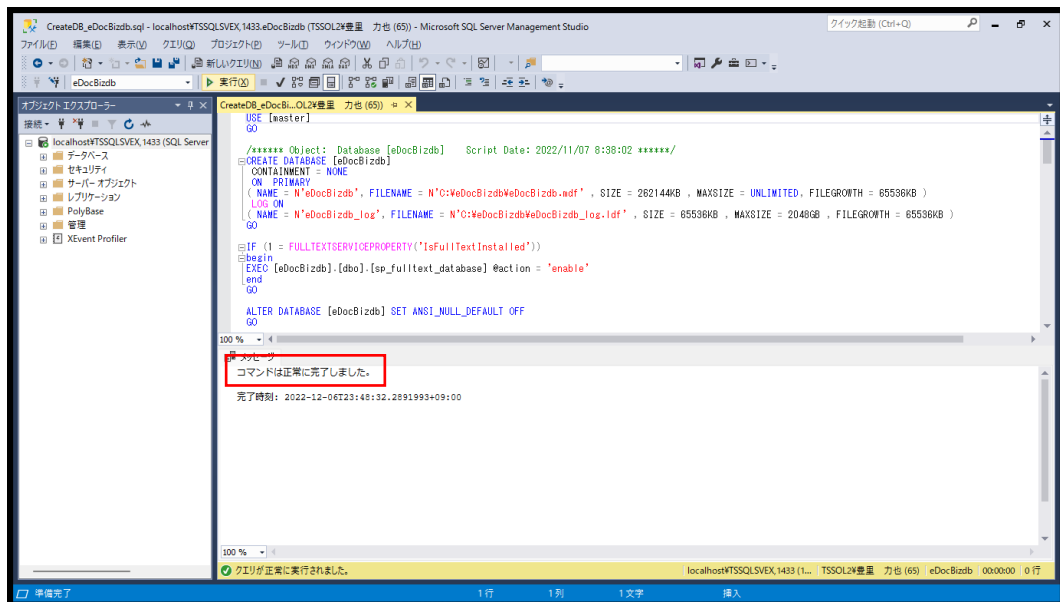
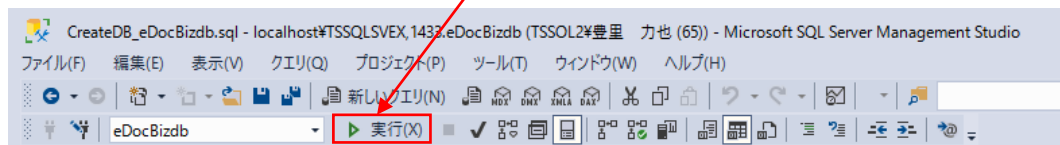


スクリプトの内容が表示されます。



実行をクリックします。

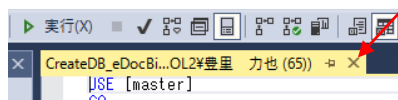
クリック



「コマンドは、正常に完了しました」と表示されている事を確認します  
上記でデータベースが作成されています。

クリック

作成が終了したらスクリプトのタブを×をクリックして閉じます。





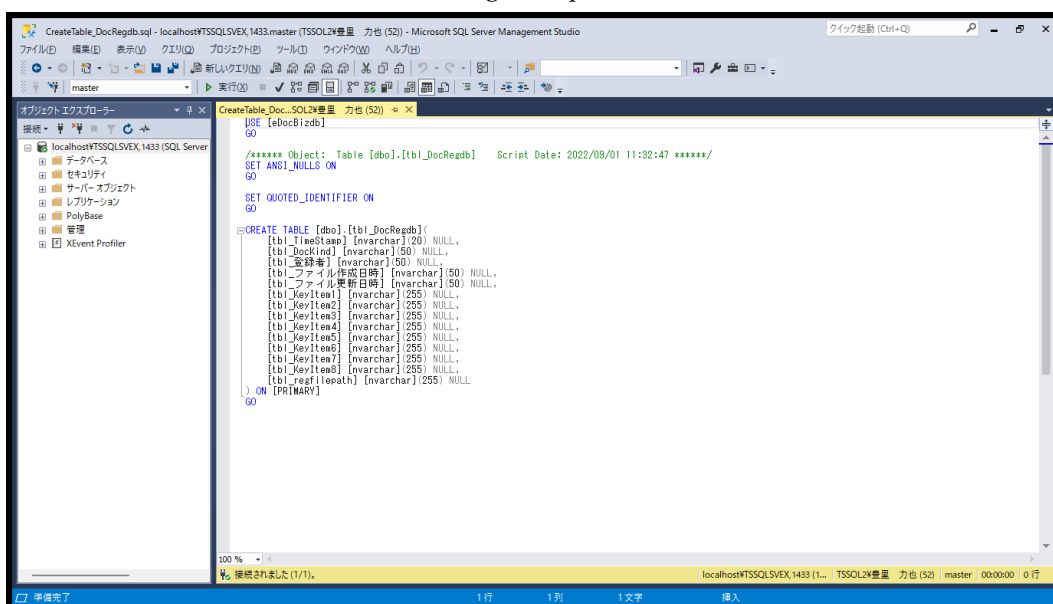
## 6.6 テーブルを作成する

テーブル作成用スクリプトファイルは、らくらく電子取引ダウンロードサイトからダウンロードした sqlscript フォルダ内に存在しています。

作成するテーブルとテーブル作成用 sql コマンドは以下の通りです。

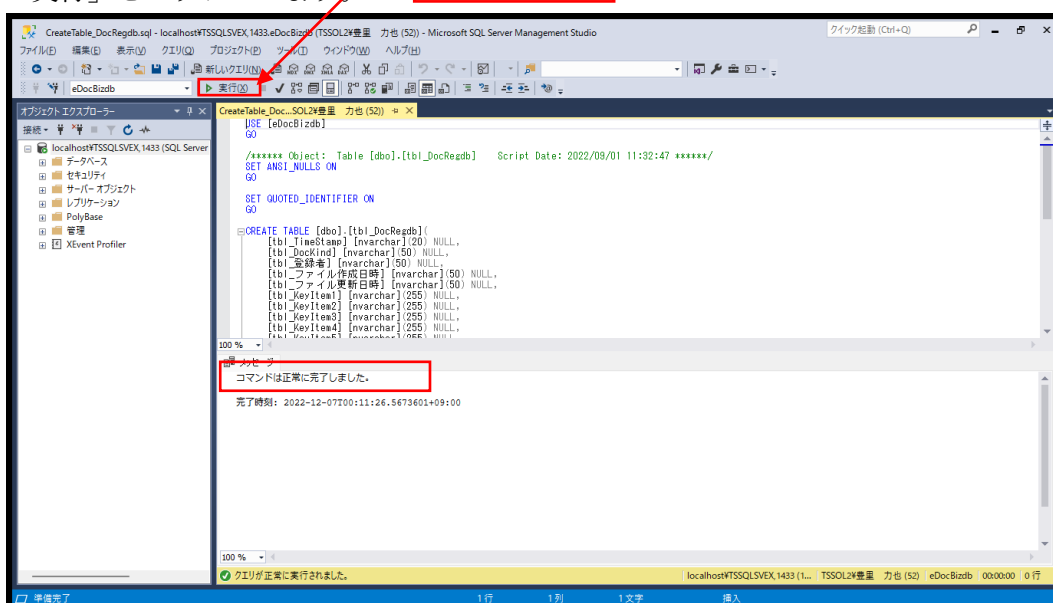
作成するテーブル名	用途	sql コマンドファイル名
tbl_DocRegDB	検索キーデータ	CreateTable_DocRegDB.sql
tbl_UserAccount	利用者情報管理	CreateTable_UserAccount.sql
tbl_Log	ログ	CreateTable_Log.sql

メニューバーのファイル>開く>ファイルから、あらかじめダウンロードした sql コマンドファイルの CreateTable\_DocRegDB.sql を指定して取り込みます。

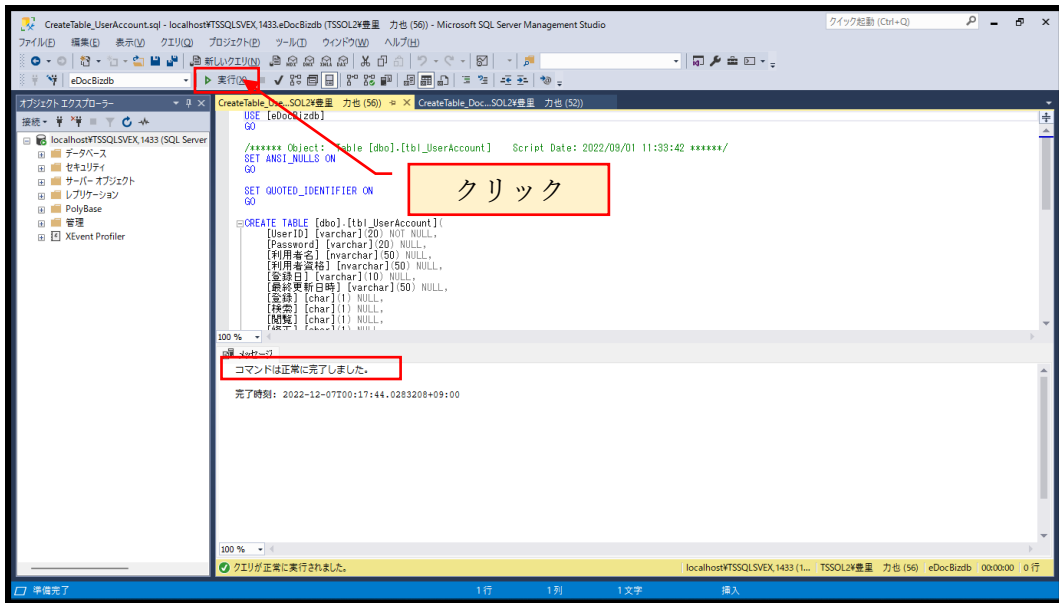


「実行」をクリックします。

クリック

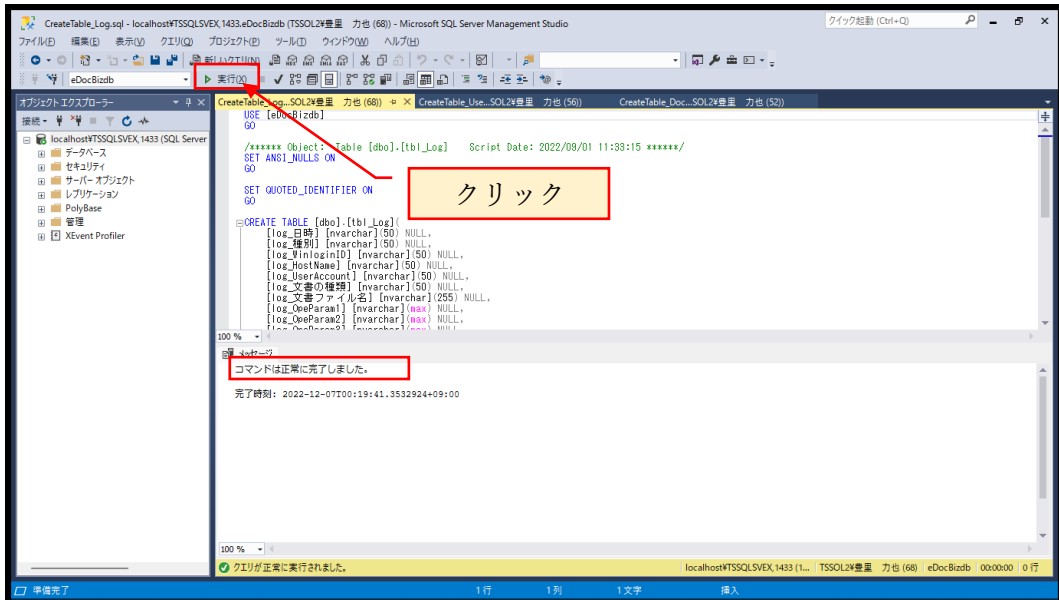


同様に、CreateTable\_UserAccount.sql を開いて実行します。



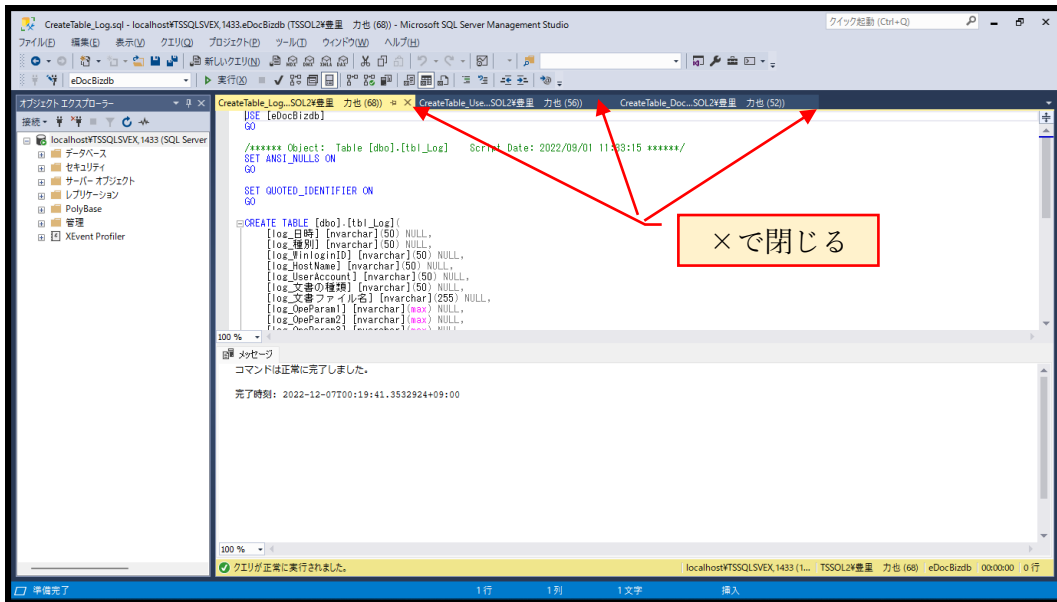
「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

同様に、CreateTable\_Log.sql を開いて実行します。



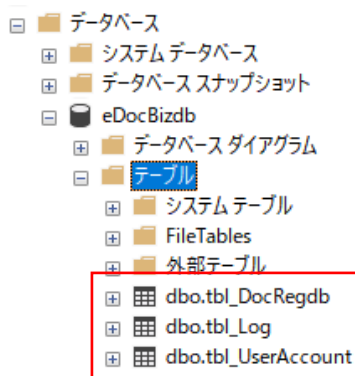
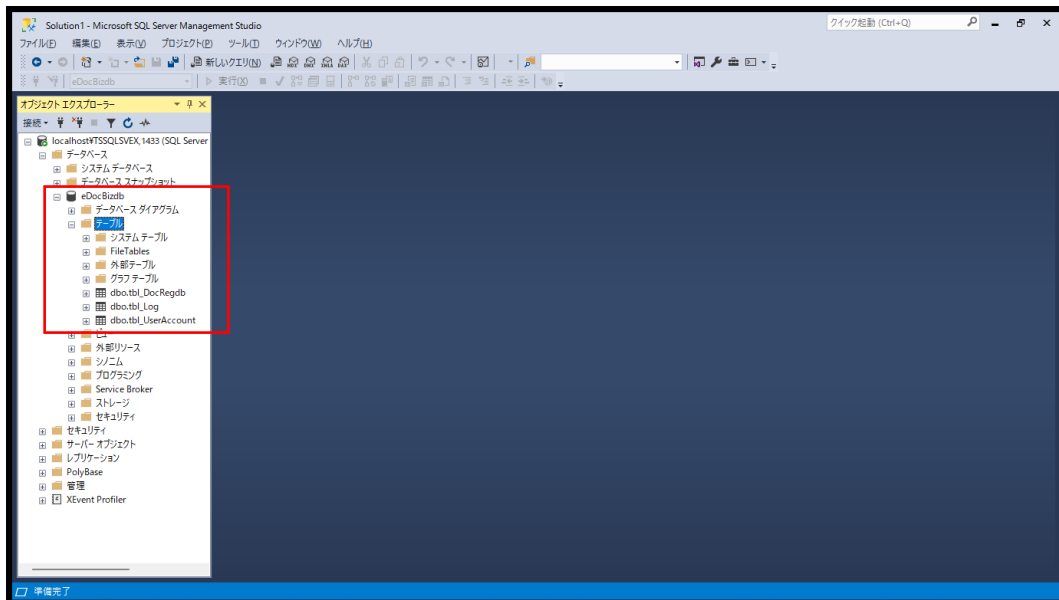
「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

表示されているテーブル作成用のスクリプトタブを×で閉じます



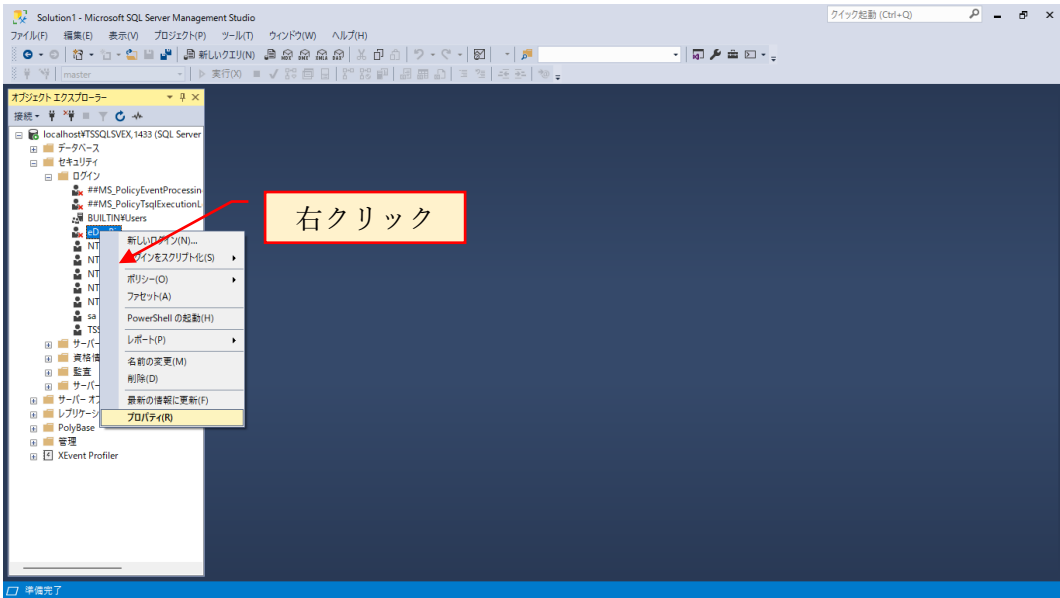
データベース>eDocBizdb>テーブルを右クリックして表示されるショートカットメニューから、「最新の情報に更新」をクリックします。

3つのテーブルが作成されている事を確認します。

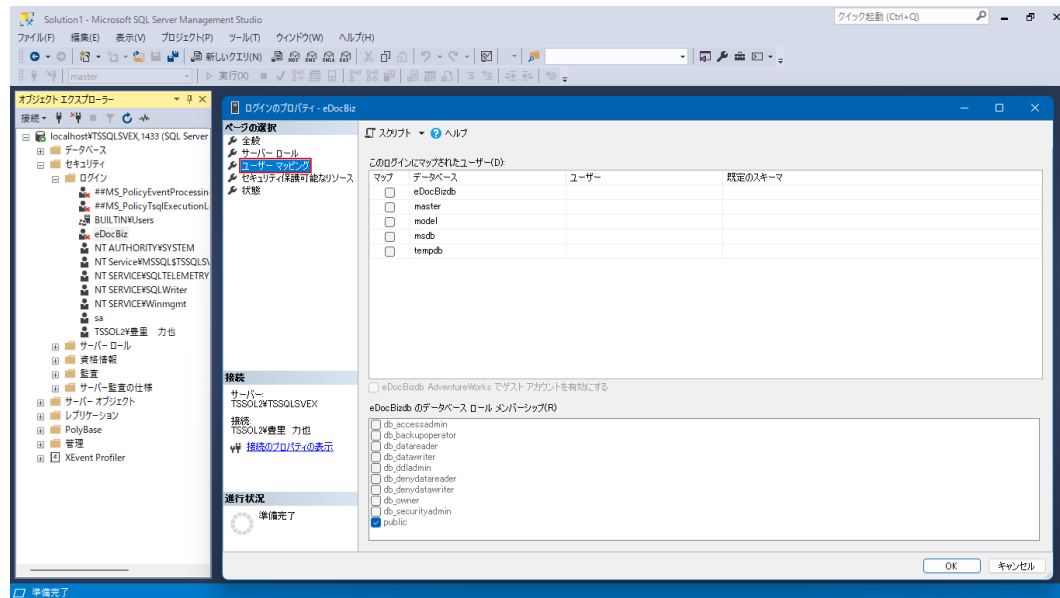


## 6.7 データベースユーザを作成する

セキュリティ>ログイン>eDocBiz を選択し右クリックでプロパティを表示します。



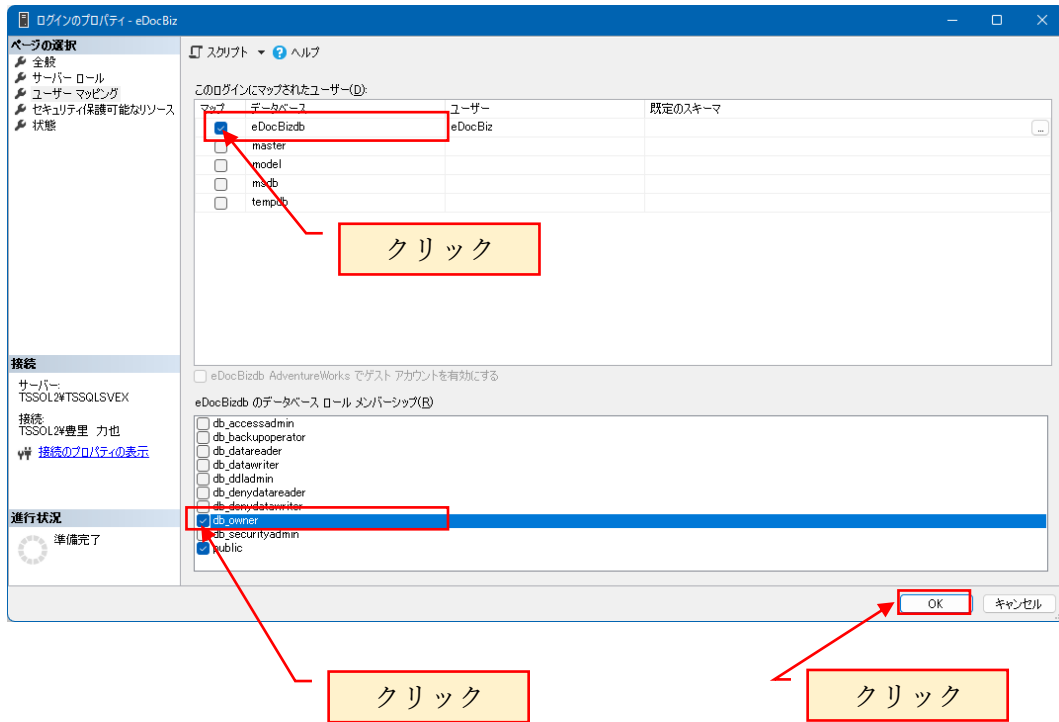
## ユーザマッピングを選択



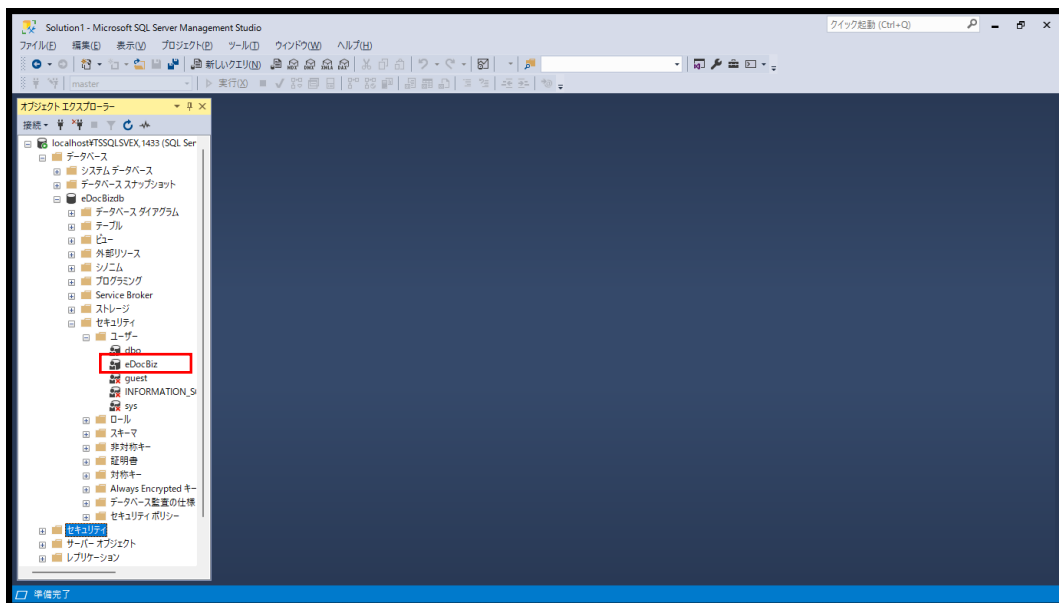
### ページの選択

- 全般
- サーバー ロール
- ユーザー マッピング**
- セキュリティ保護可能なリソース
- 状態

eDocBizdb にチェックを入れて、データベースロールメンバシップの db\_owner にチェックを入れます。



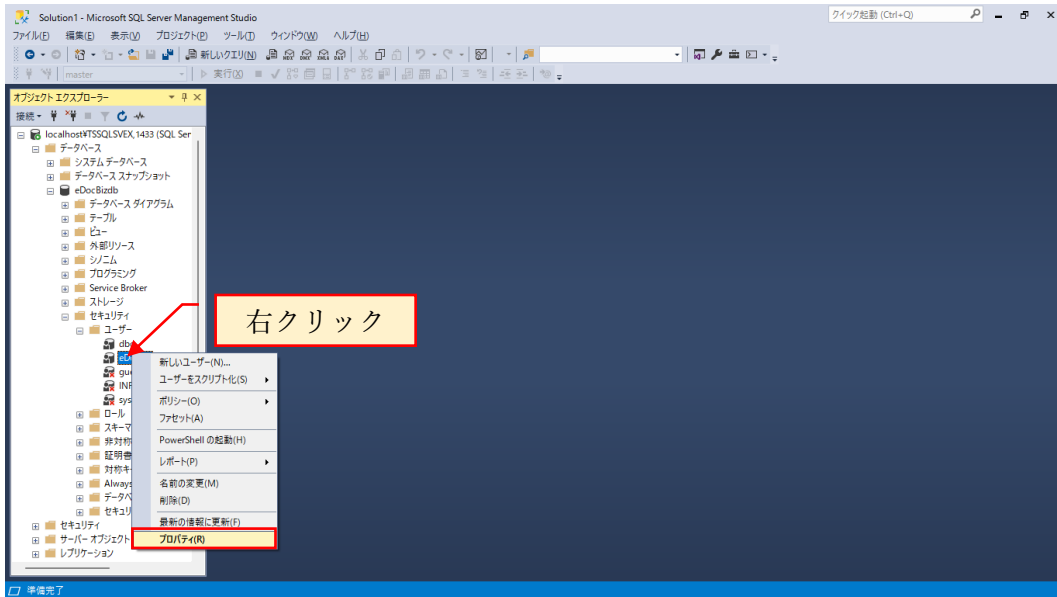
データベース>eDocBizdb>セキュリティ>ユーザーに eDocBiz が作成されていることを確認します。



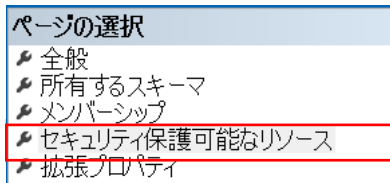
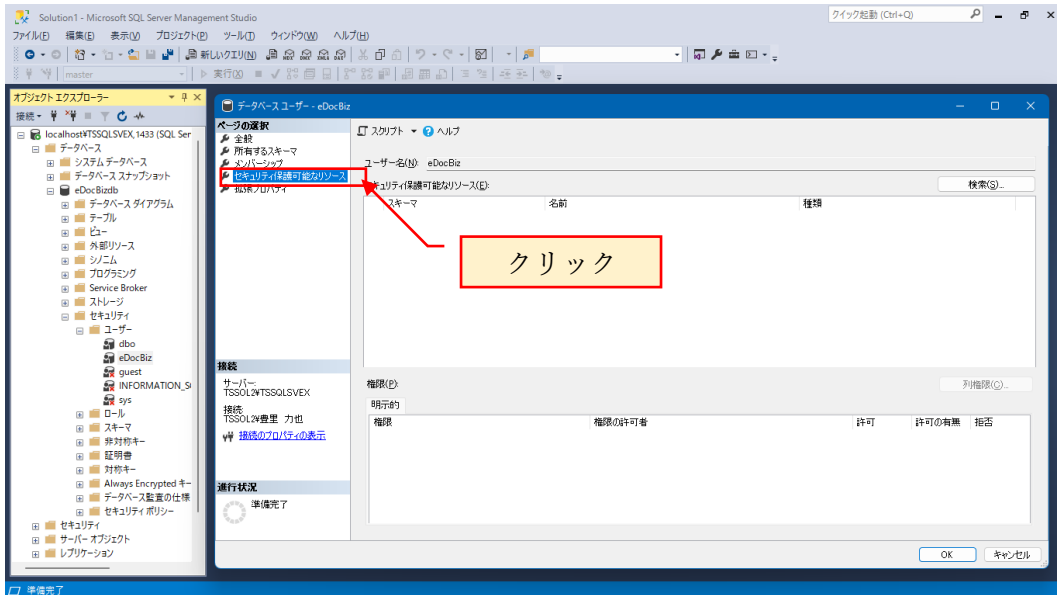
## 6.8 セキュリティ可能なリソースを設定する

データベース>eDocBizdb を展開

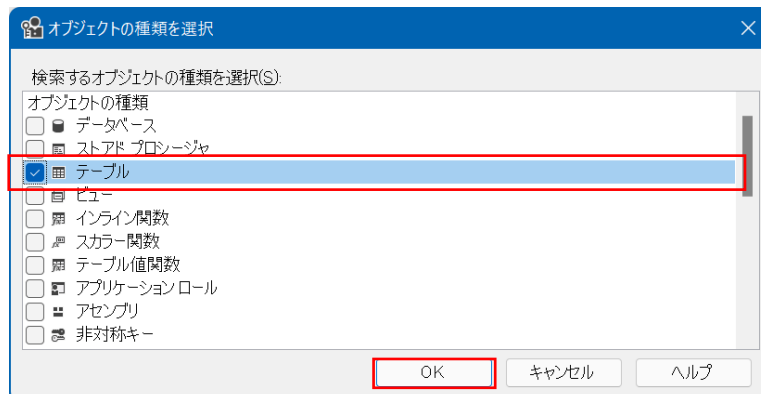
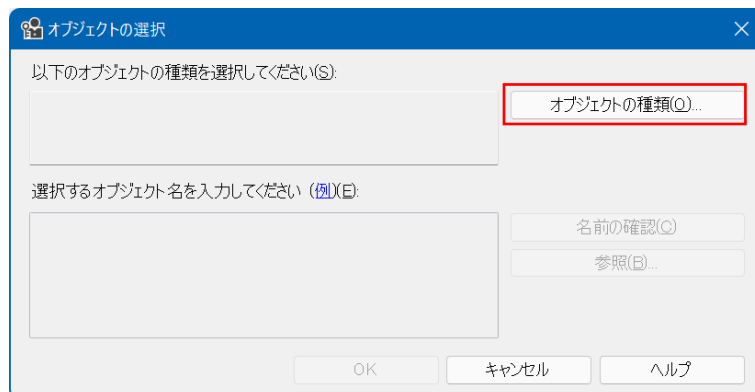
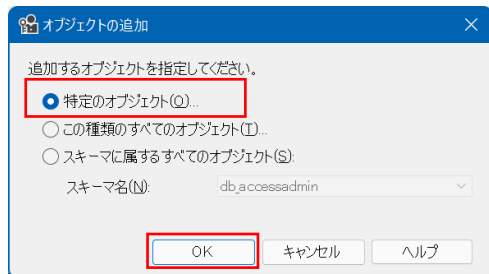
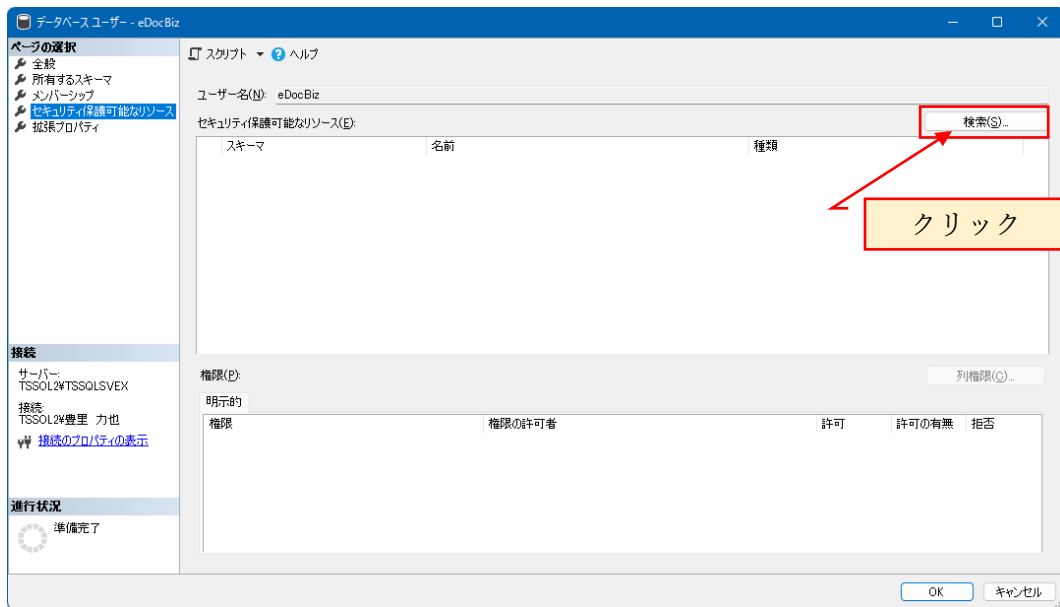
eDocBizdb>セキュリティ>ユーザ>eDocBiz を選択してプロパティを表示します。

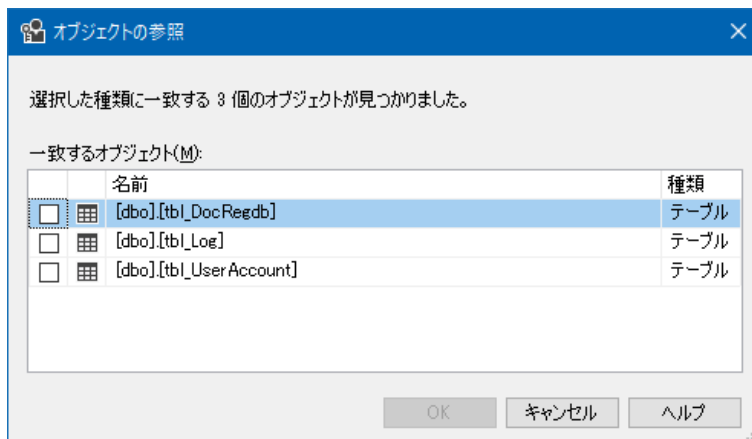
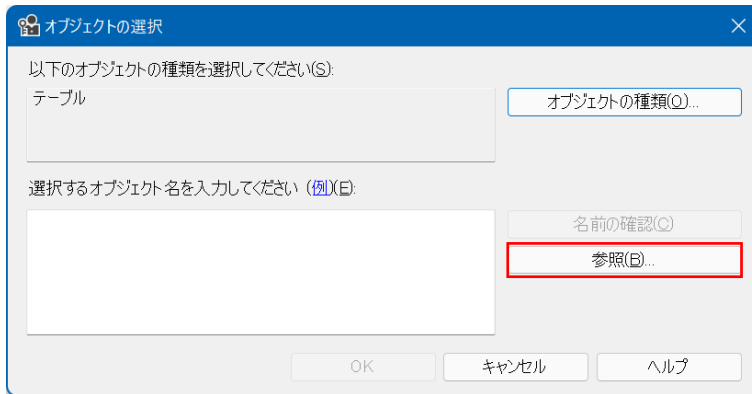


セキュリティ保護可能なリソースを選択します。

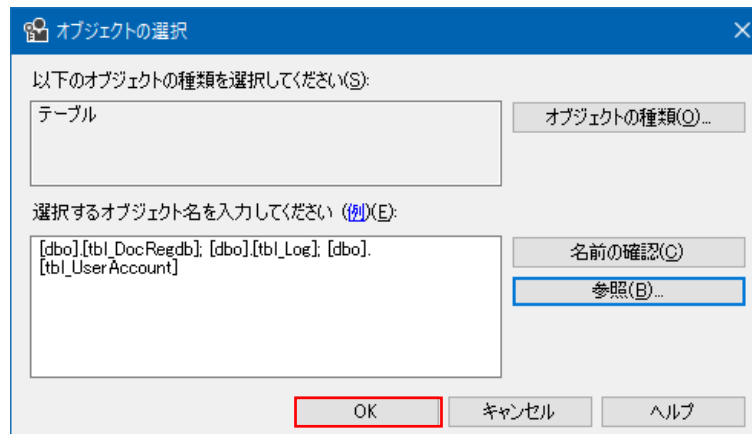
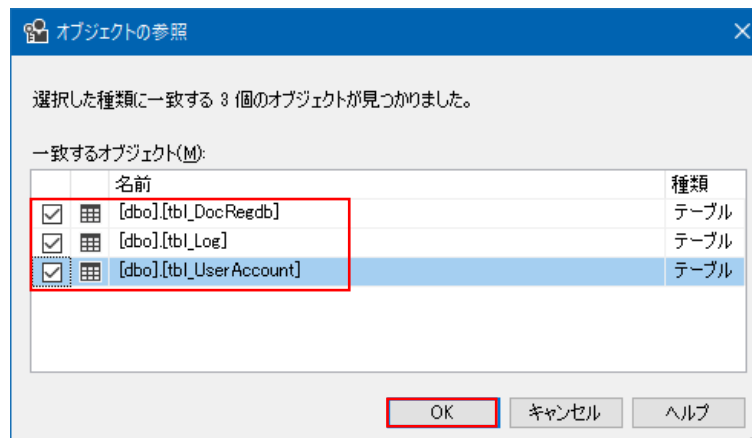


セキュリティ可能なリソースの「検索」をクリックします。

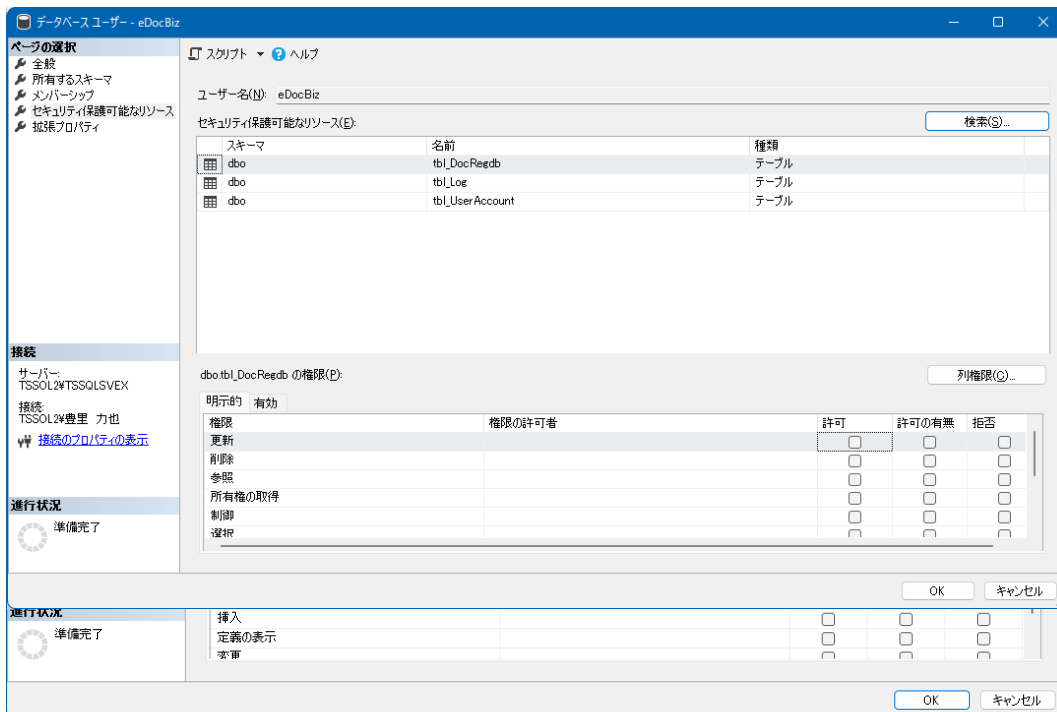




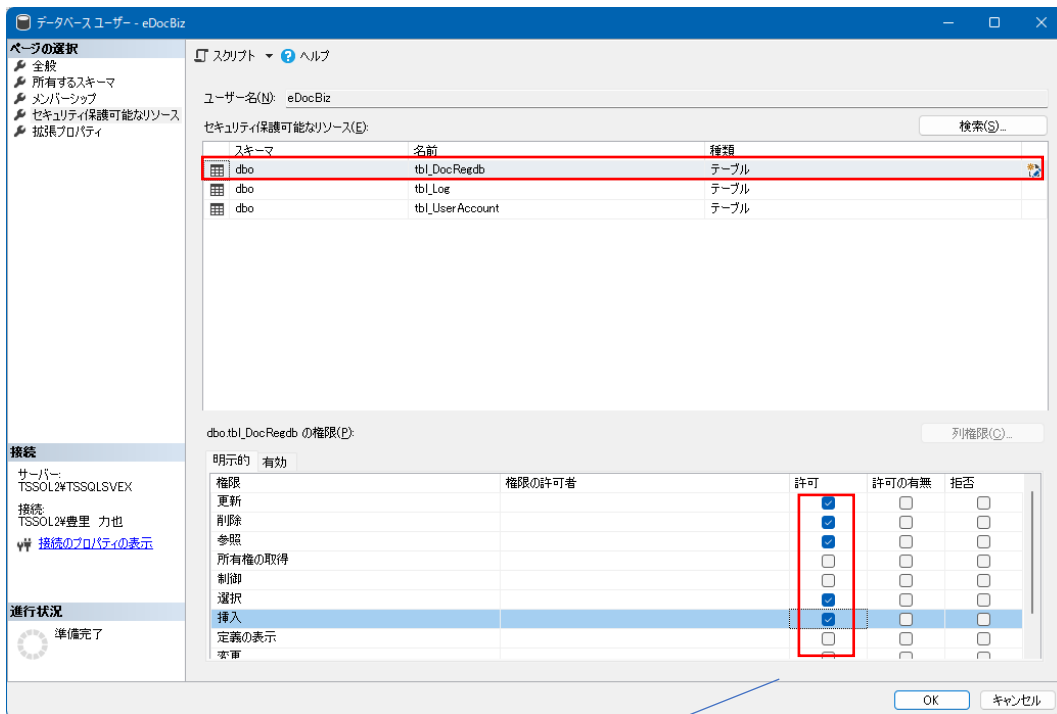
3つのテーブルにチェックを入れます。





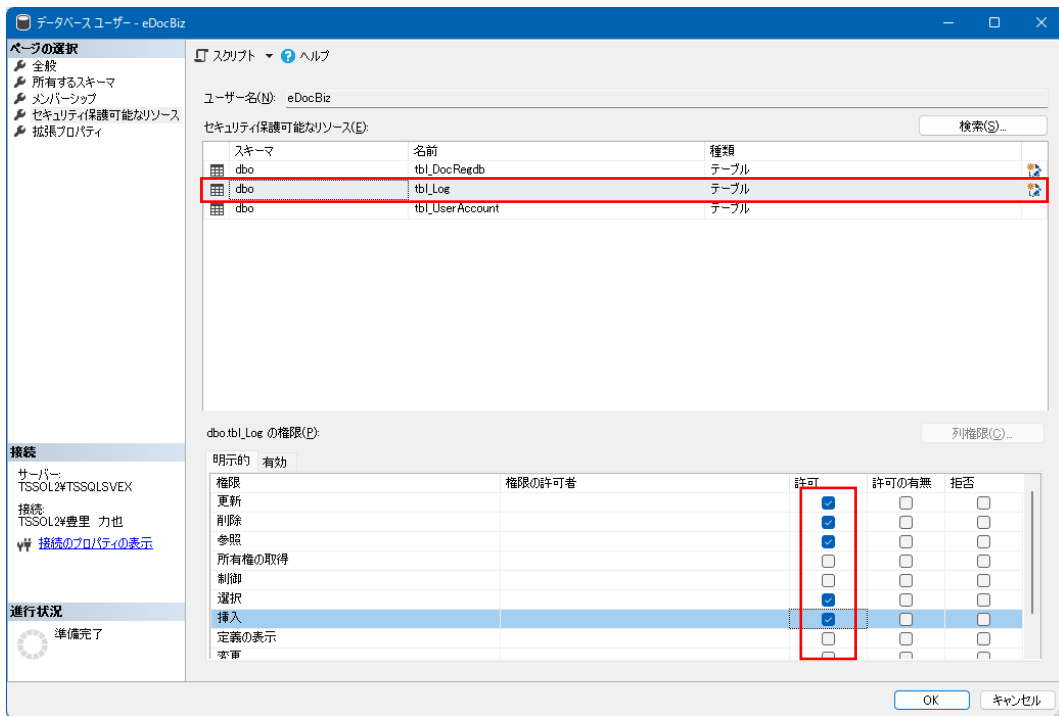


tbl\_DocRegdb を選択し、下記の許可をチェックします。

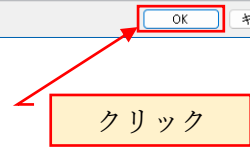
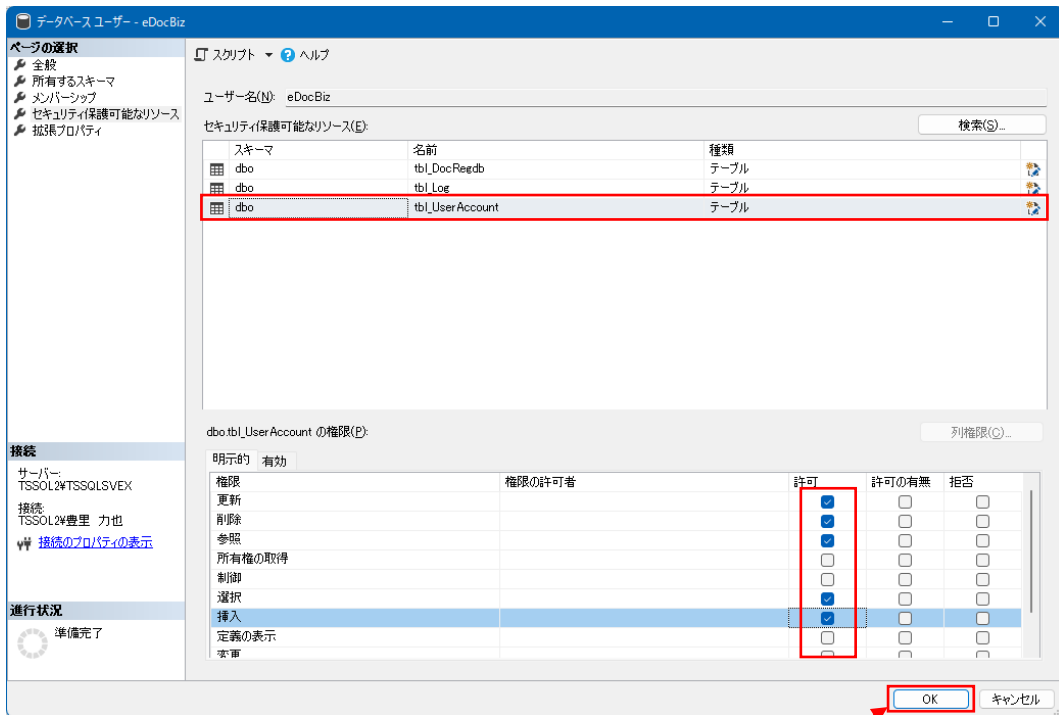


権限	許可
更新	<input checked="" type="checkbox"/>
削除	<input checked="" type="checkbox"/>
参照	<input checked="" type="checkbox"/>
所有権の取得	<input type="checkbox"/>
制御	<input type="checkbox"/>
選択	<input checked="" type="checkbox"/>
挿入	<input checked="" type="checkbox"/>

同様に、tbl\_Log を選択し、許可のチェックを入れます。

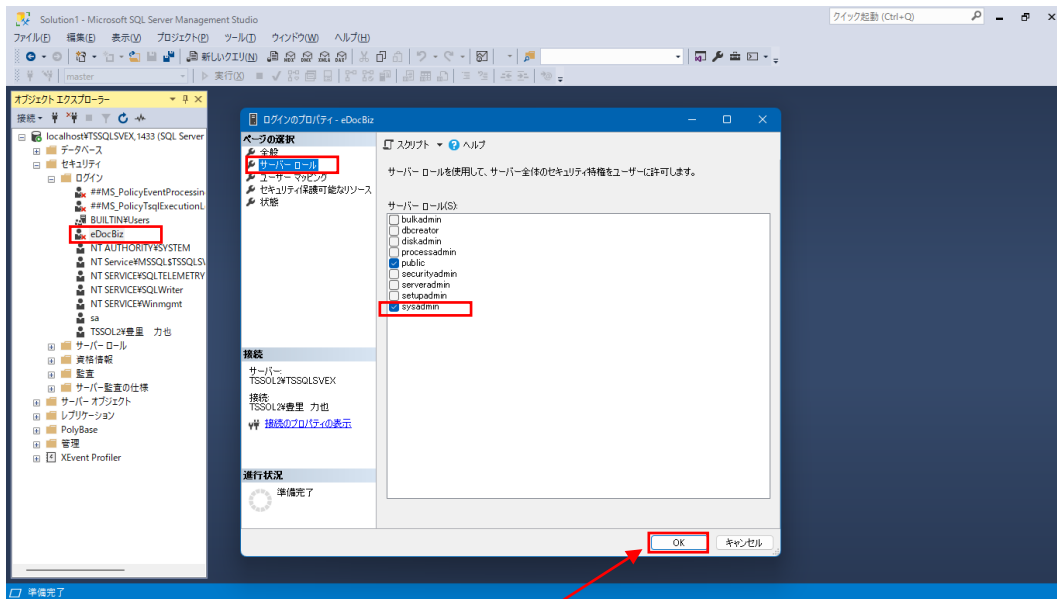


同様に、tbl\_UserAccount を選択し、許可のチェックを入れます。



## 6.9 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する

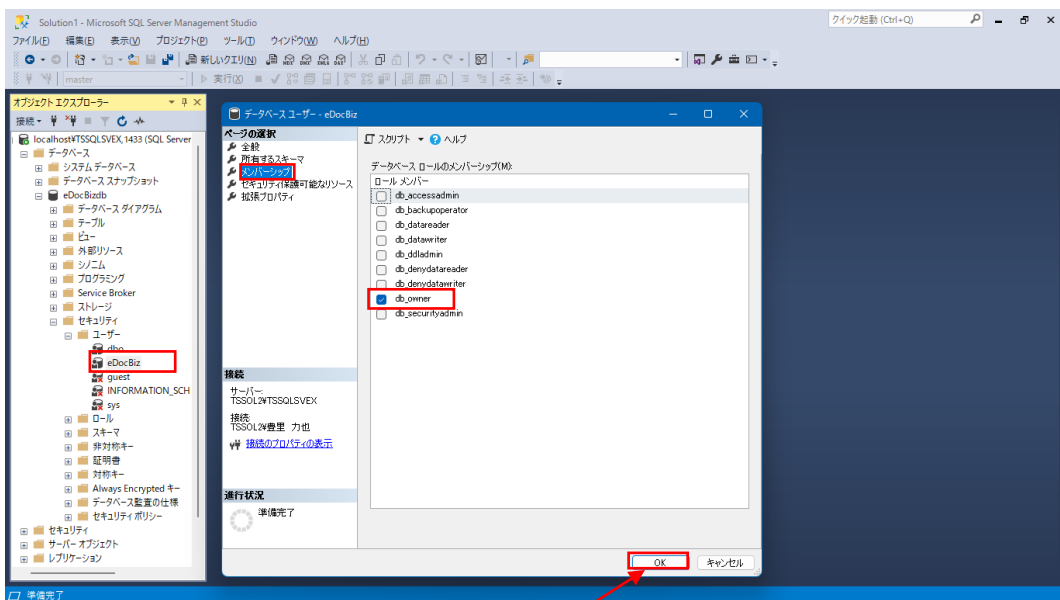
セキュリティ>ログイン>eDocBiz を選択し右クリックでプロパティを表示  
サーバロール > sysadmin にチェックを入れます。



クリック

データベース>eDocBizdb>セキュリティ>eDocBiz のプロパティを表示し、  
メンバーシップを選択

ロールメンバーとして db\_owner にチェックがあることを確認します。



クリック

接続解除をクリックしてデータベースの接続を解除します。

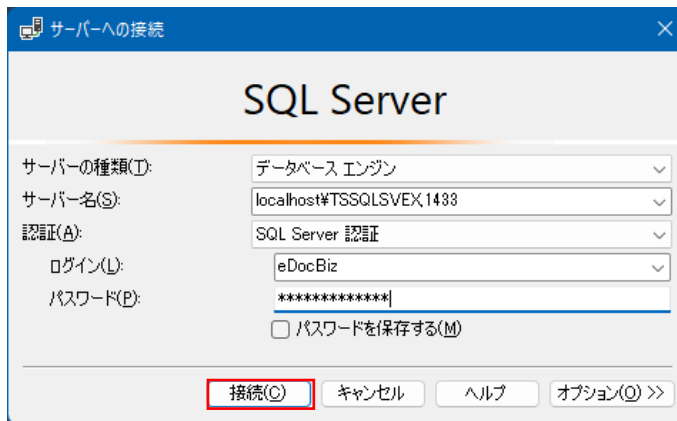
## 6.10 データベースがリモート接続可能な設定を行なう

接続をクリックし、SQL Server 認証でログインします。

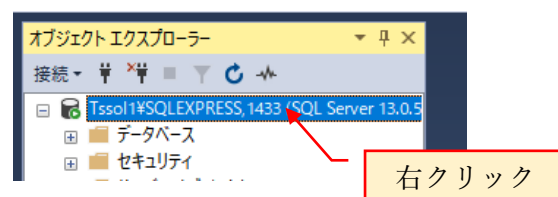
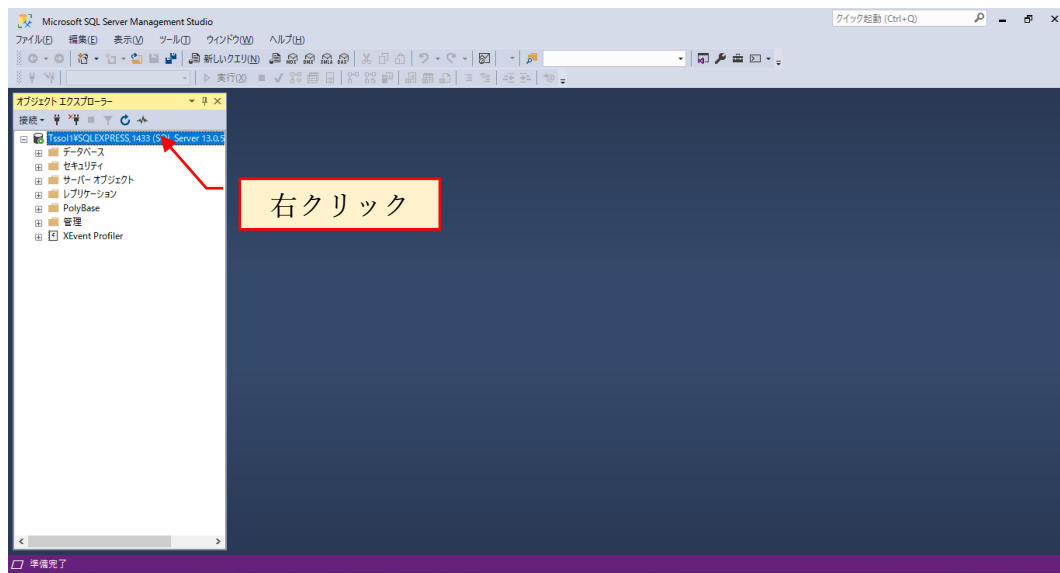
サーバ名は、下記では Tssol1 となっていますが、実際には SQL Server がインストールされている PC のホスト名となります。

ログイン名：eDocBiz

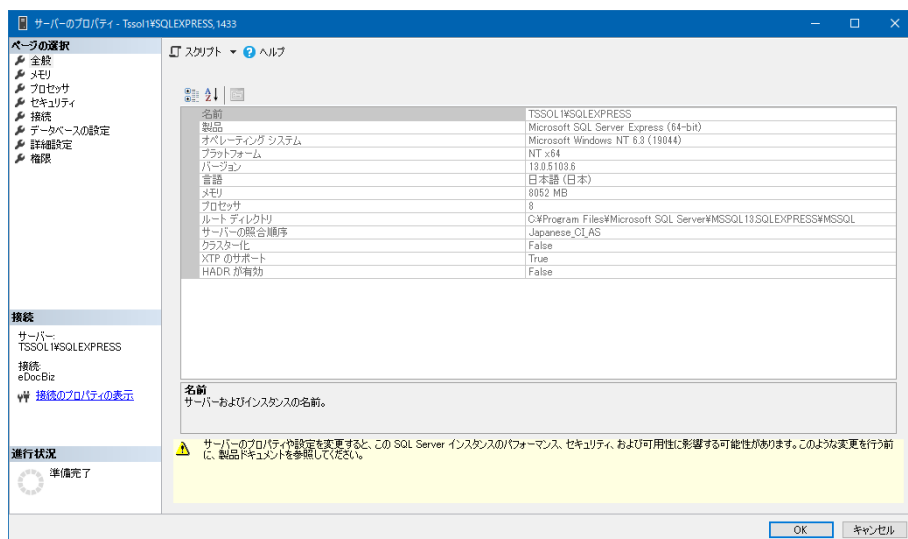
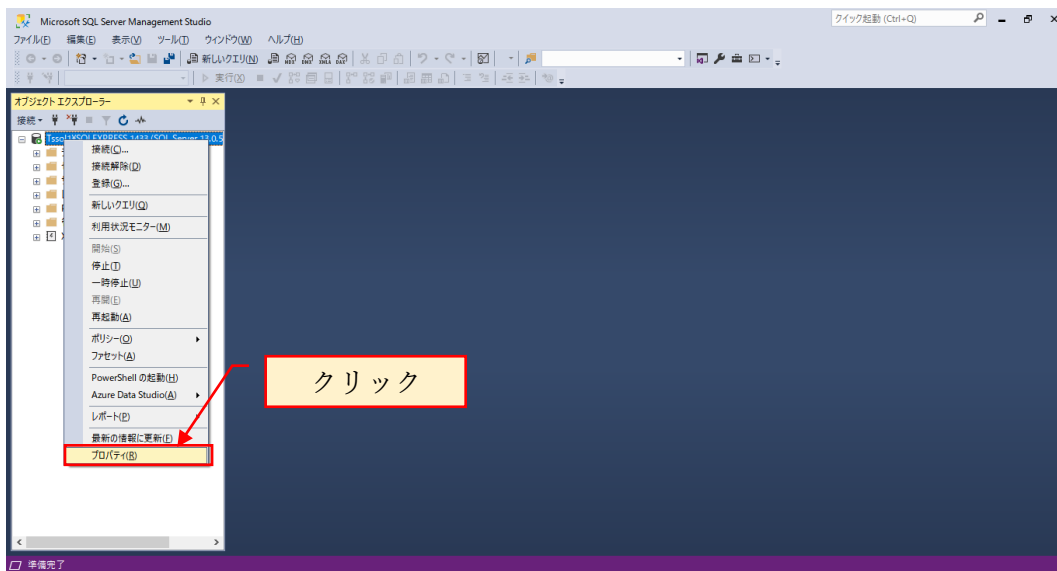
パスワード：eDocBiz!admin



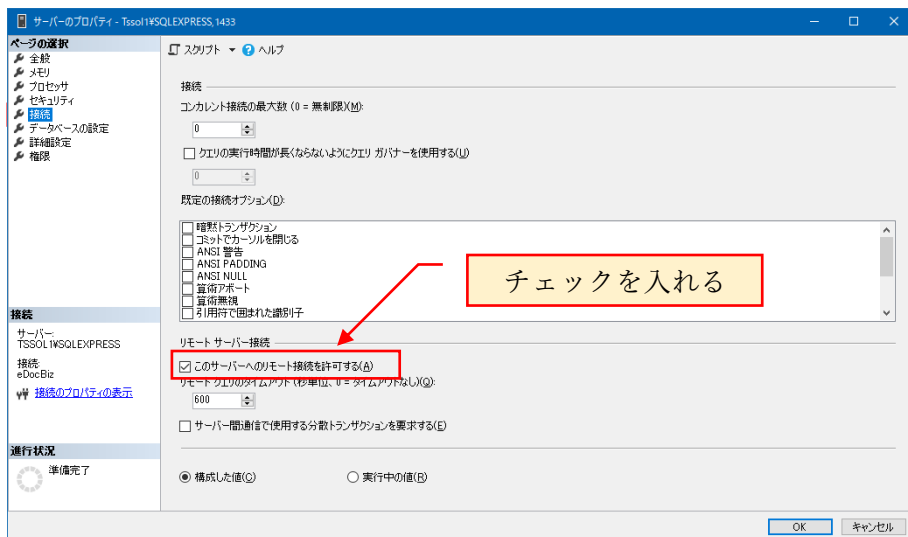
## オブジェクトエクスプローラ



ショートカットメニューのプロパティをクリックすると下記の画面が表示されます。



ページの選択で「接続」をクリックし、「このサーバへのリモート接続を許可する」のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。



閉じるボタンで SQL Server ManagementStudio を終了します。  
 以上で SQL Server の設定が終了です。

## 7. テーブル仕様

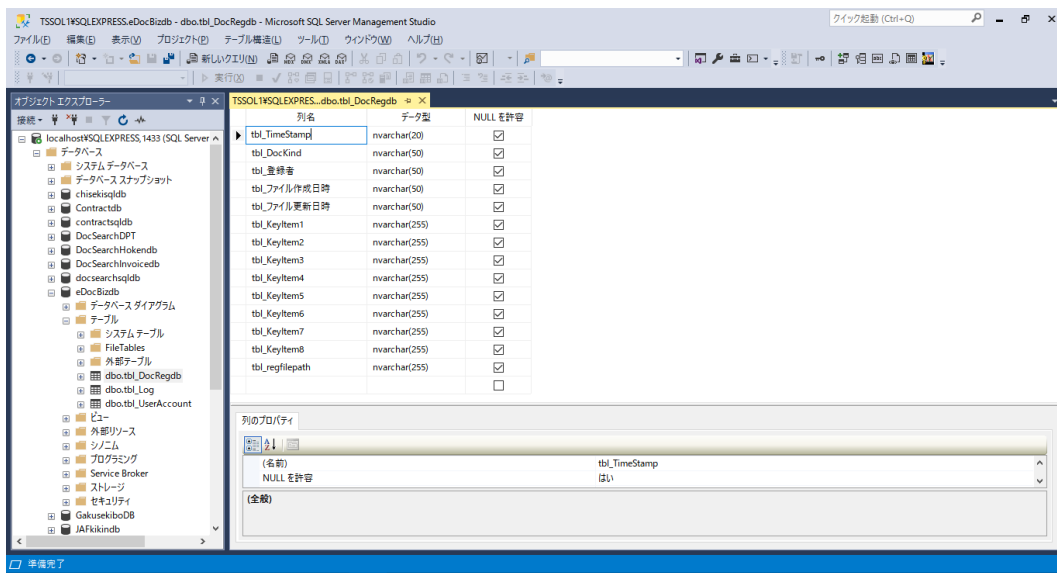
らくらく電子取引で使用するテーブルデザインについて以下に記載します。

SQL Management Studio を起動し、SQL Server 認証でログインします。

オブジェクトエクスプローラからデータベースを展開し、テーブルを選択します。  
テーブルデザイン仕様を表示するには、各テーブルを選択した状態で右クリックし「デザイン」をクリックすると表示されます。

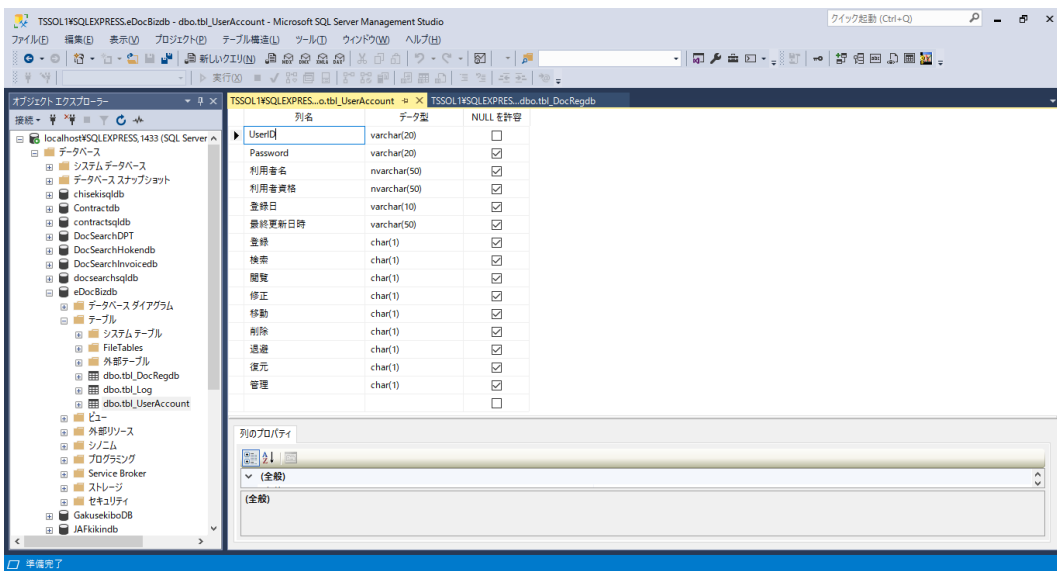
以下、テーブルデザインの内容を記載します。

### 検索データ：tbl\_DocRegdb

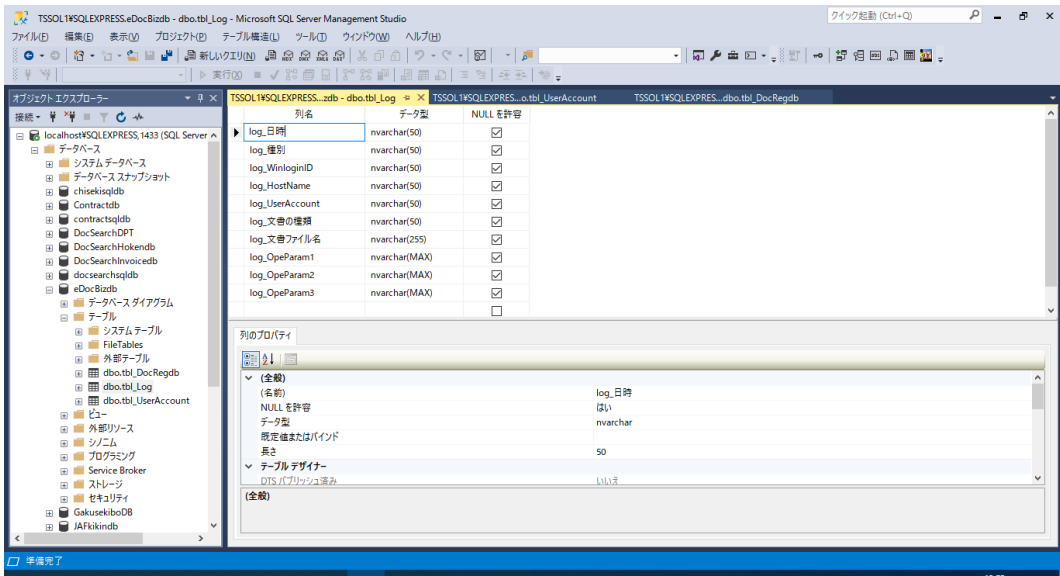


列名	データ型	NULL を許容
tbl_TimeStamp	nvarchar(20)	<input type="checkbox"/>
tbl_DocKind	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_登録者	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_ファイル作成日時	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_ファイル更新日時	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem1	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem2	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem3	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem4	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem5	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem6	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem7	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_KeyItem8	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>
tbl_regfilepath	nvarchar(255)	<input checked="" type="checkbox"/>

### 利用者情報テーブル：tbl\_UserAccount



列名	データ型	NULL を許容
UserID	varchar(20)	<input type="checkbox"/>
Password	varchar(20)	<input checked="" type="checkbox"/>
利用者名	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
利用者資格	nvarchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
登録日	varchar(10)	<input checked="" type="checkbox"/>
最終更新日時	varchar(50)	<input checked="" type="checkbox"/>
登録	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
検索	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
閲覧	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
修正	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
移動	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
削除	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
遠慮	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
復元	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>
管理	char(1)	<input checked="" type="checkbox"/>



## 8. 添付資料

### 8.1 データベース作成用 SQL スクリプト

ファイル名 : CreateDB\_eDocBizdb.sql

スクリプトの内容 :

```
USE [master]
```

```
GO
```

```
/***** Object: Database [eDocBizdb] Script Date: 2022/11/07 8:38:02 *****/
```

```
CREATE DATABASE [eDocBizdb]
```

```
CONTAINMENT = NONE
```

```
ON PRIMARY
```

```
( NAME = N'eDocBizdb', FILENAME = N'C:\eDocBizdb\DocBizdb.mdf' , SIZE = 262144KB , MAXSIZE = UNLIMITED, FILEGROWTH = 65536KB )
```

```
LOG ON
```

```
( NAME = N'eDocBizdb_log', FILENAME = N'C:\eDocBizdb\DocBizdb_log.ldf' , SIZE = 65536KB , MAXSIZE = 2048GB , FILEGROWTH = 65536KB )
```

```
GO
```

```
IF (1 = FULLTEXTSERVICEPROPERTY('IsFullTextInstalled'))
```

```
begin
```

```
EXEC [eDocBizdb].[dbo].[sp_fulltext_database] @action = 'enable'
```

```
end
```

```
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_NULL_DEFAULT OFF
```

```
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_NULLS OFF
```

```
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_PADDING OFF
```

```
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ANSI_WARNINGS OFF
```

```
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ARITHABORT OFF
```



GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO\_CLOSE OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO\_SHRINK OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO\_UPDATE\_STATISTICS ON

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CURSOR\_CLOSE\_ON\_COMMIT OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CURSOR\_DEFAULT GLOBAL

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET CONCAT\_NULL\_YIELDS\_NULL OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET NUMERIC\_ROUNDABORT OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET QUOTED\_IDENTIFIER OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET RECURSIVE\_TRIGGERS OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DISABLE\_BROKER

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET AUTO\_UPDATE\_STATISTICS\_ASYNC OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DATE\_CORRELATION\_OPTIMIZATION OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET TRUSTWORTHY OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET ALLOW\_SNAPSHOT\_ISOLATION OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET PARAMETERIZATION SIMPLE

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET READ\_COMMITTED\_SNAPSHOT OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET HONOR\_BROKER\_PRIORITY OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET RECOVERY SIMPLE

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET MULTI\_USER

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET PAGE\_VERIFY CHECKSUM

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DB\_CHAINING OFF

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET FILESTREAM( NON\_TRANSACTED\_ACCESS =  
OFF )

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET TARGET\_RECOVERY\_TIME = 60 SECONDS

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET DELAYED\_DURABILITY = DISABLED

GO

ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET QUERY\_STORE = OFF

GO

```
USE [eDocBizdb]
GO
```

```
ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET
LEGACY_CARDINALITY_ESTIMATION = OFF;
GO
```

```
ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET MAXDOP = 0;
GO
```

```
ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET PARAMETER_SNIFFING = ON;
GO
```

```
ALTER DATABASE SCOPED CONFIGURATION SET
QUERY_OPTIMIZER_HOTFIXES = OFF;
GO
```

```
ALTER DATABASE [eDocBizdb] SET READ_WRITE
GO
```

8.2 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト  
ファイル名：CreateTable\_DocRegDB.sql  
スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO
```

```
/****** Object: Table [dbo].[tbl_DocRegdb]      Script Date: 2022/08/21 9:21:38
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_DocRegdb](
  [tbl_TimeStamp] [nvarchar](20) NULL,
  [tbl_DocKind] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_登録者] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_ファイル作成日時] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_ファイル更新日時] [nvarchar](50) NULL,
  [tbl_KeyItem1] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem2] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem3] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem4] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem5] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem6] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem7] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_KeyItem8] [nvarchar](255) NULL,
  [tbl_regfilepath] [nvarchar](255) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

8.3 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト  
ファイル名：CreateTable\_UserAccount.sql  
スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO
```

```
/****** Object: Table [dbo].[tbl_UserAccount] Script Date: 2022/08/21
9:22:12 *****/
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_UserAccount](
    [UserID] [varchar](20) NOT NULL,
    [Password] [varchar](20) NULL,
    [利用者名] [nvarchar](50) NULL,
    [利用者資格] [nvarchar](50) NULL,
    [登録日] [varchar](10) NULL,
    [最終更新日時] [varchar](50) NULL,
    [登録] [char](1) NULL,
    [検索] [char](1) NULL,
    [閲覧] [char](1) NULL,
    [修正] [char](1) NULL,
    [移動] [char](1) NULL,
    [削除] [char](1) NULL,
    [退避] [char](1) NULL,
    [復元] [char](1) NULL,
    [管理] [char](1) NULL
) ON [PRIMARY]
GO
```

#### 8.4 ログテーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable\_Log.sql

スクリプトの内容：

```
USE [eDocBizdb]
GO
```

```
/****** Object: Table [dbo].[tbl_Log]      Script Date: 2022/08/21 15:47:09
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_Log](
    [log_日時] [nvarchar](50) NULL,
    [log_種別] [nvarchar](50) NULL,
    [log_WinloginID] [nvarchar](50) NULL,
    [log_HostName] [nvarchar](50) NULL,
    [log_UserAccount] [nvarchar](50) NULL,
    [log_文書の種類] [nvarchar](50) NULL,
    [log_文書ファイル名] [nvarchar](255) NULL,
    [log_OpeParam1] [nvarchar](max) NULL,
    [log_OpeParam2] [nvarchar](max) NULL,
    [log_OpeParam3] [nvarchar](max) NULL
) ON [PRIMARY] TEXTIMAGE_ON [PRIMARY]
GO
```

以上



株式会社豊里システムソリューション

〒112-0005

東京都文京区水道2-11-5

明日香ビル1階（Z i t ビジネスセンター内）

E-Mail : [info@tssol.jp](mailto:info@tssol.jp)

<https://www.tssol.jp/>